

IV 専門科目

IV-i 看護学分野

病態機能学特論	47	母子看護学特論演習	73
病態機能学特論演習	48	周産期看護学特論演習	74
基礎看護学特論	49	周産期看護展開論Ⅰ	75
基礎看護学特論演習	50	周産期看護展開論Ⅱ	76
看護管理特論	51	周産期看護展開論Ⅲ	77
看護管理特論演習	52	周産期看護展開論Ⅳ	79
地域保健行政看護学特論	53	周産期看護実習Ⅰ	80
地域保健行政看護学特論演習	54	周産期看護実習Ⅱ	81
家族・在宅看護学特論	55	周産期看護実習Ⅲ	82
家族・在宅看護学特論演習	56	母性看護学課題研究	84
成人看護学特論	57	精神看護学特論Ⅰ	85
成人看護学特論演習	58	精神看護システム特論	87
老年看護学特論Ⅰ	59	精神看護学特論演習	89
老年看護学特論演習	60	精神機能学特論	90
老年看護学特論Ⅱ	61	精神看護学特論Ⅱ	92
老年看護学特論Ⅲ	62	精神看護学特論Ⅲ	94
老年看護学特論Ⅳ	63	精神看護学特論Ⅳ	96
老年看護学特論Ⅴ	64	精神看護展開論Ⅰ	98
老年看護展開論Ⅰ	65	精神看護展開論Ⅱ	100
老年看護展開論Ⅱ	66	精神看護学実習Ⅰ	102
老年看護学実習Ⅰ	67	精神看護学実習Ⅱ	103
老年看護学実習Ⅱ	68	精神看護学実習Ⅲ	104
老年看護学課題研究	69	精神看護学実習Ⅳ	105
母子看護学特論	70	精神看護学実習Ⅴ	107
周産期看護学特論	71	精神看護学課題研究	108
女性生涯看護学特論	72	看護学特別研究	109

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
病態機能学特論 (専門科目)	学 長・上月 正博 教 授・遠藤 和子	博士前期課程 1年	通年	2	30	CNS 必修	否
授業概要	組織、細胞、遺伝子レベルで生じている病的現象が、身体機能の逸脱や様々な臨床症候をひきおこすメカニズムについて、最新の知見を含めて、教示する。さらに、そのようなメカニズムに基づく効果的な看護援助方法について、考察する。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に遭遇する一般的な疾患の臨床症状、好発年齢や性差、経過・転帰について、病態とメカニズムから理解できる。 ・各種病態において、組織、細胞、遺伝子レベルで生じている現象を理解できる。 ・疾患に対する効果的な看護援助方法について、疾患の病態やメカニズムに基づき検討できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織、細胞、遺伝子レベルで生じている病的現象の特徴をライフサイクルから理解できる。 ・各種疾患の発症とその経過における組織、細胞、遺伝子レベルで生じている変化を説明できる。 ・各種病態の病態に基づき、臨床症状や身体所見、検査所見などを理解できる。 ・各種疾患における組織、細胞、遺伝子レベルで生じている現象を踏まえて、効果的な看護援助方法を検討できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	<p>方針：受講態度（事前の英文論文精読という予習の状況、授業の参加態度）と課題レポートで評価する。</p> <p>方法：討議と課題レポートの提出、その内容を総合的に評価。</p> <p>基準：講義内容の理解と各到達目標について評価する。</p>						
授業形式	対面もしくは遠隔授業（状況により受講生とも相談の上、決定します）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習 など	担当		
1	後日連絡	ライフサイクルと病態	発生異常、成長・発達の障害、老化、 個体死	医療・医学 についての 社会的事項 についても つねに関心 をもち、新 聞や雑誌等 で最新の情 報にふれる ように心が ける。	上月		
2		フレイル・サルコペニア	定義、頻度、疾病との関係、生命予後		上月		
3・4		炎症の病態と生活習慣病	炎症のプロセス、急性炎症・慢性炎症の 病態、炎症の修復起点、免疫反応の成り 立ち、生活習慣病との関係		上月		
5・6		生活習慣病の病態とメカニズム	虚血性心疾患、心不全、高血圧症、動脈 硬化症、COPD などの慢性呼吸器疾患		上月		
7・8		生活習慣病の病態とメカニズム	糖尿病、肥満、腎臓病、肝臓病		上月		
9・10		感染症の病態とメカニズム	各種感染症の感染経路と伝搬、各種感染 症の病原体と病変の特徴、感染症の傾向 と対応、新興感染症		上月		
11		腫瘍の病態とメカニズム	腫瘍の発生・進展、分類と特性、予防・ 早期発見・治療		上月		
12・13		5.11. 2 (木) 7 5.11. 9 (木) 7	日常的に遭遇する疾患の病態 から考える看護援助①		糖尿病患者に対する看護実践に必要な アセスメント。援助方法		遠藤 (和)
14・15	5.11.16 (木) 7 5.11.30 (木) 7	日常的に遭遇する疾患の病態 から考える看護援助②	心不全患者に対する看護実践に必要な アセスメント。援助方法		スポッ ト (門馬)		
教科書 参考図書	特定の教科書は指定しないが、授業の前に事前に決められた英文論文を精読することが必要である。参考図書や文献については講義の中で随時紹介する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病の名称、病原体、治療法、その他の専門用語はすべて英語を用いる予定なので、それらに対応できるように準備（医学英和辞典の購入、英文文献の精読の訓練など）をしておくこと。 						
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に宿題として英文論文を読んでおくことが前提で、討議形式の講義をこころがけるので、能動的、積極的な姿勢で講義へ参加すること。 ・多くの事柄を関連づけて論理的にわかりやすくまとめることができるように心掛けること。 						
e-mail・研究室 (連絡先)	<p>上月正博：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp (686-6601)</p> <p>遠藤和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp (686-6644)</p>						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
病態機能学特論演習 (専門科目)	学長・上月 正博	博士前期 課程1年	後期	2	30	選択	否
授業概要	現代の高度に専門化した医療に対応しうる、より専門性の高い看護師や看護学研究者の養成においては、対象となる疾病についての、病因、病態生理、疫学、分子機構、治療戦略などについて広い視野からの理解とそれを基盤とした応用が重要である。そのような意味から、本講義では、各種生活習慣病、感染症などを主題とした演習を行う。						
一般目標	看護病態機能学特論での講義を踏まえ、 ・罹患率の高い生活習慣病あるいはフレイル・サルコペニア、感染症に関する最新情報と対応策を取得・解析する。 ・最新の感染制御に関する情報を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な生活習慣病について、疫学、病理学的特性、治療の実態などを総括・評価できる。 各種感染症における最新の情報を取得し、原因病原体、宿主の免疫応答を理解できる。 毎回の講義の前に、指定英文論文を事前に精読しておくことにより、英文論文を読む習慣を身につけ、内容を的確に理解し、その内容を総括・批評できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	方針： <u>受講態度（事前の英文論文精読という予習の状況、授業の参加態度）と課題レポート</u> で評価する。 方法：討議と課題レポートの提出、その内容を総合的に評価。 基準：講義内容の理解と各到達目標について評価する。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
	後日連絡	罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法についての情報を取得し、その解析・総括を試みる。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関しての専門的知識を身につける。	保健医療施設におけるデータや検索された文献等を用いて、ゼミ形式で、討議する。	情報の取得は日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	上月		
教科書 参考図書	特定の教科書は指定しないが、 <u>授業の前に事前に決められた英文論文を精読することが必要である。</u> 参考図書や文献については講義の中で随時紹介する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 疾病の名称、治療法、その他の専門用語はすべて英語を用いる予定なので、それらに対応できるような準備（医学英和辞典の購入、英文文献の精読の訓練など）をしておくこと。 討議形式の討議を予定しているので、能動的、積極的な姿勢でこれらの討議へ参加すること。 						
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <u>事前に宿題として決められた英文論文を読んでおくことが前提で、討議形式の講義をこころがけるので、能動的、積極的な姿勢で講義へ参加すること。</u> 多くの事柄を関連づけて論理的にわかりやすくまとめることができるように心掛けること。 						
e-mail・研究室 (連絡先)	上月正博：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp (686-6601)						

授 業 科 目 名 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	対 象 者	開 講 時 期	単 位 数	時 間 数	必 修 ・ 選 択 の 別	科 目 等 履 修 生
基礎看護学特論 (専門科目)	教授・沼澤 さとみ	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	基礎看護学領域に関する理論や概念、あるいは看護実践で課題となっている事柄を取り上げ、主に討議形式で学習する。また、基礎看護学領域に関する研究の動向を、文献を用いて検討する。						
一般目標	1. 基礎看護学領域に関する理論や概念、看護実践で課題となっている事柄について理解できる。 2. 基礎看護学領域の研究の動向について理解できる。						
到達目標	1. 基礎看護学領域に関する理論や概念、看護実践で課題となっている事柄について説明できる。 2. 基礎看護学領域の研究の論文を検索し、クリティークできる。 3. 文献検討から研究の動向と課題を理解し、研究課題を見出す。						
成績評価方針 評価方法 および基準	プレゼンテーション・課題またはレポート (60%) ディスカッションへの参加度 (40%)						
授業形式	対面授業 (一部を遠隔授業にすることもあります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	毎 週 水 曜 日 5 限 目	オリエンテーション	授業の進め方 文献検索の方法		沼澤		
2 3		基礎看護学領域 (主に看護 実践・看護技術) の基盤と なる概念や理論	看護実践や看護技術のエビデンスとな る文献を検索・収集し、討議する。 (自立、ヘルスリテラシー、リフレクシ ョン、共感などを取り上げる)	収集した文献について 資料を作成する	沼澤		
4 5		看護実践・看護技術の研究 の動向と課題	紹介する文献、あるいは学生が検索した 文献を用いて検討、議論する。	とりあげた概念や理論 についてレポートする	沼澤		
6 7 8		基礎看護学領域 (主に看護 倫理) の基盤となる概念や 理論	国内外の文献を検索・収集し、精読する。 精読した文献について討議する。 (意思決定、アドボカシーなどを取り上 げる)	収集した文献について 資料を作成する	沼澤		
9 10 11		看護倫理の研究の動向と課 題	紹介する文献、あるいは学生が検索した 文献を用いて検討、議論する。	とりあげた概念や理論 についてレポートする	沼澤		
12 13		基礎看護学領域 (主に看護 教育) の基盤となる概念や 理論	国内外の文献を検索・収集し、精読する。 精読した文献について討議する。 (学習方法、リフレクションなどを取り 上げる)	収集した文献について 資料を作成する	沼澤		
14 15		看護教育の研究の動向と課 題	紹介する文献、あるいは学生が検索した 文献を用いて検討、議論する。	とりあげた概念や理論 についてレポートする	沼澤		
教 科 書 参 考 図 書		必要時紹介する					
履 修 上 の 注 意							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	受講者の関心のある事柄を取り上げたいと思います。疑問や問題意識をもって、積極的に取り組んでください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	沼澤さとみ：研究室 11 snmazawa@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
基礎看護学特論演習	教授・沼澤 さとみ 准教授・南雲 美代子 准教授・半田 直子 講師・高橋 直美	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	1. 基礎看護学特論で学習した理論や概念等を踏まえて、学生が取り組む研究課題や研究手法について学習する。 2. キネステティック概念を体験から学習する。						
一般目標	1. 文献検討により研究課題を明確にし、研究方法の理解を深めて研究計画を立案できる 2. キネステティック概念を体験から理解し、人の動きおよび動きの援助が健康に及ぼす影響について考察する。						
到達目標	1. 文献検討から研究課題を明確にする。 2. 研究目的を達成するために適切な研究デザイン、データ収集・分析方法を検討できる。 3. 研究を行う上で必要な倫理的配慮の方法について検討できる。 4. キネステティック概念を体験から理解し、自分の動きを概念で説明することができる。 5. 人の動きおよび動きの援助が健康に及ぼす影響について記述することができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	・各回授業でのプレゼンテーション・レポート等の内容 (60%) ・ディスカッション・演習への参加度 (40%) 上記を総合して評価する						
授業形式	対面授業 (一部を遠隔授業にすることもあります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	毎週 水曜日 6-7 限目	オリエンテーション	・演習の進め方について ・関心のある課題について討議	各回の授業の学習課題に応じて、以下の学習をしてください。 ・学習課題に関して紹介する、あるいは学生自身で探した文献や図書を読む。 ・学習課題についてプレゼンテーションや討議をするための資料を作成する。 ・学習成果としてのレポートを作成する。	沼澤		
2~6		研究課題と文献の検討	・学生の研究課題に関連する文献について検討し、研究課題と研究の意義を明確にする。		沼澤		
		研究デザインの検討	・文献検討により、研究課題に応じた研究デザインについて検討する ・研究デザインの違いによるデータ収集・分析方法の違いを検討する		沼澤		
7~12		研究デザインの検討 データ収集・分析方法の検討	・先行研究や資料など文献を用い検討する。		半田		
13~18		研究デザインの検討 データ収集・分析方法の検討	・先行研究や資料など文献を用い検討する。		高橋		
19~24		人の活動を分析・支援するための概念を学ぶ	[学習サイクルを用いた体験学習] 同じ活動を概念学習前後で比較しながら、概念を学習する。動きが人の健康にどのように影響するかも考察する。		南雲		
25~30		研究の倫理的配慮 研究計画書作成	・研究デザインから、研究対象者やデータ収集に際しての倫理的配慮を検討する ・研究計画のプレゼンテーション		沼澤		
教科書 参考図書	随時紹介します [学習サイクルを用いた体験学習] で使用するテキスト フランク・ハッチ、レニー・マイエッタ、スザンヌ・シュミット著、澤口裕二訳：「看護・介護のためのキネステティクス」ふくろう出版、2009.						
履修上の注意							
学生への メッセージ	修士論文につながる内容を中心に授業をすすめます。積極的な学習を期待します。						
e-mail・研究室 (連絡先)	沼澤：研究室 11 snumazawa@yachts.ac.jp 南雲：研究室 12 mnagumo@yachts.ac.jp 半田：研究室 3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋：研究室 21 ntakahashi@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
看護管理特論 (専門科目)	非常勤講師 寺島 美紀子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	否
授業概要	看護管理能力の向上を目指して、組織論、看護制度・政策論、医療経済や関連法規など看護管理に必要な知識について、具体的な例を提示しながら授業を展開する。						
一般目標	1. 社会の変化に対応しつつ質の高い看護サービスを提供するために、看護管理者として必要な基礎知識を習得する。 2. 看護管理者として果たすべき自己の役割を理解できる。						
到達目標	1. 病院の看護管理の基本的な知識を説明できる。 2. 現代日本の医療・看護を取り巻く状況と其中での看護管理者の役割を説明できる。 3. 看護の質向上のために果たすべき看護管理者の役割を考察できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	プレゼンテーション：50% 課題の内容および提示の方法で評価します。 ディスカッションへの参加度：30% 積極性および論理的思考で評価します。 課題レポート：20% 自己の考えを論理的に述べているかで評価します。						
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	毎 週 火曜日 3限目	看護管理の発展と定義	看護管理の歴史的背景と定義	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報収集 文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等 自身の所属する施設や部署の客観視と課題の発見			寺島
2		組織論	組織の定義と特徴、組織行動 看護組織の構造と特徴				
3		組織の調整と変革①	パワーとエンパワメント、コンフリクト				
4		組織の調整と変革②	交渉術、動機づけ理論、変革理論				
5		リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷と特徴				
6		看護管理の基礎	管理活動の基本、機能と展開				
7		医療制度と医療経済	医療・看護の現状、医療経済				
8		看護制度・政策	看護制度の歴史と政策決定過程				
9		看護管理と人的資源管理①	看護職の需給の推移、人材確保				
10		看護管理と人的資源管理②	人材育成、キャリア発達、労務管理				
11		看護における業務管理	効率性、利便性を考慮した管理				
12		看護における情報管理	情報管理とその活用、個人情報保護				
13		看護における安全管理	リスクマネジメント、看護管理と法的責任				
14		看護の質の保障	質の評価指標と活用				
15		看護管理研究と展望	看護管理研究の傾向と今後の展望				
教科書 参考図書	【参考書】 ・井部俊子監修；看護管理学習テキスト第3版（全5巻・別巻），日本看護協会出版会，2022。 ・小池智子他編集；看護サービス管理第5版，医学書院，2018。 その他、随時紹介します。						
履修上の注意							
学生への メッセージ	それぞれの専門領域や経験を元に、問題意識をもって積極的に授業に参加してください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	寺島 美紀子：mikit3010@icloud.com						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
看護管理特論演習 (専門科目)	非常勤講師 寺島 美紀子	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	前期に学習した看護管理概説を元に、病院での看護管理活動の実践事例や文献を検討し、看護管理の課題や展望を探究する。						
一般目標	1. 病院の看護管理の具体的な方法を理解できる。 2. 看護管理研究の文献などから、課題を考察できる。 3. 組織を発展させる看護管理者の役割を理解できる。						
到達目標	1. 病院の看護管理活動の実践事例や文献検討を通して、看護管理の課題を説明できる。 2. 現在の看護管理研究から、課題や展望を説明できる。 3. チェンジリーダーとしての看護管理者の役割と方法を考察できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	プレゼンテーション：40% 課題の内容および提示の方法で評価します。 ディスカッションへの参加度：30% 積極性および論理的思考で評価します。 課題レポート：30% 自己の考えを論理的に述べているかで評価します。						
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
	毎週 木曜日 3-4限目	【1回～15回】 看護管理の実際 (役割・機能等) 英文購読 文献学習 【16回～30回】 看護管理研究 文献学習	以下を、ゼミ形式で行う。 1. 看護管理の実際例についての学習に 基づき、意見交換を行う。 2. 国内外の看護管理の文献学習を行 う。(英文購読含む) 3. 最近の看護管理研究から、看護管理 研究の動向や課題を調べる。 4. 看護管理に関する自己の問題意識や 課題を論理的に考察し説明する。	文献検索、収集、検討、 プレゼンテーション 準備、等	寺島		
教科書 参考図書	【参考書】 ・井部俊子監修；看護管理学習テキスト第3版（全5巻・別巻），日本看護協会出版会，2022. ・小池智子他編集；看護サービス管理 第5版，医学書院，2018. ・Bessie L. Marquis, Carol J. Huston；Leadership Roles and Management Functions in Nursing, Wolters Kluwer/Lippincott Williams &Wilkins. ・Eleanor J. Sullivan, Phillip J. Decker；Effective Leadership and Management in Nursing. その他、随時紹介します。						
履修上の注意							
学生への メッセージ	それぞれの専門領域や経験を元に、問題意識をもって積極的に授業に参加してください。 柔軟な発想力を求めます。						
e-mail・研究室 (連絡先)	寺島 美紀子：mikit3010@icloud.com						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
地域保健行政看護学特論 (専門科目)	教授・菅原 京子 准教授・今野 浩之	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可
授業概要	地域保健を巡る情勢が大きく変化している現状を踏まえ、変化に対応した地域ヘルスケアシステム構築を探究できる看護の専門的能力を養うため、明治時代から今日に至る地域保健（衛生）行政及び保健師に関する歴史を詳細に教授する。また、今日の地域ヘルスケアの到達点と課題について教授する。						
一般目標	1. わが国の地域保健（衛生）行政及び保健師の歴史の展開について理解する。 2. 今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題を理解し、今後の展望を考察する。						
到達目標	1-1. 明治時代から今日に至るに地域保健（衛生）行政の歴史の変遷を具体的に述べることができる。 キーワード：医制、衛生警察、社会事業/健兵健民政策としての公衆衛生活動、日本国憲法 25 条、保健所法から地域保健法へ、健康づくり政策、地方自治法改正と市町村への権限移譲、公衆衛生と人権、住民と協働した子育て支援・健康づくり・介護予防、地域包括ケアシステム 1-2. 上記の変遷と保健師の資格・教育・活動の関連を明確に述べることができる。 キーワード：保健婦規則、保健師助産師看護師法における保健師、保健師教育、地域保健対策の推進に関する基本的な指針及び保健師活動指針 2-1. 今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題を具体的に述べることができる。 キーワード：地域特性、ポピュレーションアプローチ/ハイリスクアプローチ、公助/共助/互助/自助、協働・連携、支援困難事例、感染症対策 2-2. これからの地域ヘルスケアおよび保健師活動の展望について考察できる。 ※キーワードについては、履修者の職種により変更もあります。						
成績評価方針 評価方法 および基準	・プレゼンテーション作成資料（40%）：作成資料が到達目標について達成しているかを判断基準とします。資料作成の分担等については、授業のなかで指示します。 ・意見交換への参加（60%）：討議の場面で、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。						
授業形式	原則として対面授業						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	毎 週 月 曜 日 7 限 目	オリエンテーション	プレゼンテーション方法について	プレゼンテーションの準備	菅原 今野		
2		地域保健（衛生）行政の歴史	参考文献に基づいたプレゼンテーションと講義、意見交換				
3							
4							
5							
6		保健師助産師看護師法における保健師					
7		保健師教育					
8		基本指針・活動指針					
9		今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題(プレゼンテーションと意見交換)	地域特性				
10			ポピュレーションアプローチ/ハイリスクアプローチ				
11			公助/共助/互助/自助				
12			協働・連携				
13		支援困難事例					
14		感染症対策					
15		まとめ	今後の展望についての意見交換				
教科書 参考図書	参考文献 厚生省五十年の歴史（厚生省）、保健所五十年史（日本公衆衛生協会）、ふみしめて 50 年保健婦活動の歴史（日本公衆衛生協会）、衛生行政大要（日本公衆衛生協会）、国民衛生の動向（日本公衆衛生協会）、宮崎美砂子他編：最新公衆衛生看護学総論（日本看護協会出版会）、金子みつ編著：初期の看護行政（日本看護協会出版会） その他、随時紹介						
履修上の注意							
学生への メッセージ	大局的な見地から物事をとらえ、柔軟に思考することを期待しています。						
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室 17 hkono@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
地域保健行政看護学特論演習 (専門科目)	教授・菅原 京子 准教授・今野 浩之	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	可
授業概要	「保健医療福祉政策に基づいた地域/在宅看護活動」が真に住民とともにある活動であるために、さらには看護専門職としての自己の成長を図る上で、研究が果たす役割は大きい。本演習では、今日の地域/在宅看護活動に関する研究課題や研究プロセスについて探究する。						
一般目標	1. 地域/在宅看護活動の研究を行う目的と研究課題の特徴を理解できる。 2. 国内外の先行研究のクリティークを通して、地域/在宅看護活動の研究の今日における到達点を理解する。 3. 文献検討およびディスカッションを通して、自分の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。 4. 地域/在宅看護活動の発展における研究の意義を理解する。						
到達目標	1. 地域/在宅看護活動の研究を行う目的と研究課題の特徴を具体的に説明できる。 2-1. 地域/在宅看護活動の先行研究を文献と照合しながら、研究目的、意義、方法、限界等の視点からクリティークできる。 2-2. 地域/在宅看護活動に有用な研究デザインについて考察できる。 3-1. 文献検討やディスカッションを通して自分の研究疑問と研究テーマを明確にできる。 3-2. 自分の研究テーマに合致した研究デザインと研究方法を明確にできる。 3-3. 倫理的配慮について検討できる。 3-4. 研究計画としてまとめることができる。 4-1. 自分の研究が地域/在宅看護活動にどのように寄与するかを説明できる。 4-2. 地域/在宅看護活動において研究が果たす意義を具体的に説明できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	・プレゼンテーション作成資料(40%)：作成資料が到達目標について達成しているかを判断基準とします。資料作成の分担等については、授業のなかで指示します。 ・意見交換への参加(60%)：討議の場面で、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	毎週 木曜日 6-7 限目	オリエンテーション	演習の進め方、クリティークとは	プレゼンテーション の準備 学会への積極的参 加	菅原 今野		
2		なぜ研究するのか	研究を行う目的と研究課題の特徴				
3~5		先行研究のクリティーク	地域/在宅看護活動の先行研究の クリティーク				
6~10		研究デザイン	量的研究・質的研究・介入研究 地域/在宅看護活動に有用な研究 デザイン				
11~13		文献検討	文献マップによる論理的検討とプ レゼンテーション				
14~16		研究疑問と研究テーマ	自分の研究疑問と研究テーマ、研 究デザインと研究方法、倫理的配 慮の検討とプレゼンテーション				
17~21		研究デザインと研究方法					
22~24		倫理的配慮					
25~28		研究計画書作成	研究計画書のプレゼンテーション 自分の研究が地域/在宅看護活動 へどのように寄与できるか				
29~30		まとめ	地域/在宅看護活動において研究 が果たす意義についての意見交換				
教科 参考 図書	参考図書 Elizabeth T. Anderson ed: Community as Partner Theory and Practice in Nursing 研究デザイン-質的・量的・そしてミックス法(日本看護協会出版会、2011) 末武康弘他編著: 主観性を科学する-質的研究法入門(金子書房、2017) 高木廣文・林邦彦: エビデンスのための看護研究の読み方・進め方(中山書店、2007) よくわかる質的研究の進め方・まとめ方(医歯薬出版、2008) 宮崎美砂子他編: 最新公衆衛生看護学第3版(日本看護協会出版会、2022)						
履修上の注意	地域保健行政看護学特論(専門科目)を受講すること						
学生への メッセージ	主体的に行動することを求めます。						
e-mail・研究室 (連絡先)	菅原京子: 研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 今野浩之: 研究室17 hkono@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生			
家族・在宅看護学特論 (専門科目)	教授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可			
授業概要	核家族や高齢者世帯の急増などから、日本の家族は、多様化複雑化し、老老介護や介護負担の重圧など多くの課題を有している。また、社会情勢の変化を背景として、在宅療養者が増加している。国内外の文献をもとに家族と在宅療養者の現状と課題を検討し、在宅ケアにおける介護家族の特徴を踏まえ、家族看護と在宅看護の現状と課題を探究する。									
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族に関する理論と看護の専門性を理解できる。 2. 日本の家族の現状と課題について歴史的変遷を踏まえて理解できる。 3. 国内外の文献をもとにした家族看護の課題が理解できる。 4. 在宅ケアの現状について理解を深める。 5. 在宅ケアにかかわる様々な場における看護の課題を考察できる。 									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族に関する理論の特徴と活用方法が説明できる。 2. 日本における家族の現状と課題について歴史的変遷を踏まえて説明できる。 3. 国内外の文献をもとにした家族看護における看護の専門性と課題が概括できる。 4. 在宅療養者への看護の現状と課題を説明できる。 5. 在宅ケアにおいて看護の専門性を発揮するための課題を説明できる。 									
成績評価方針 評価方法 および基準	家族看護 プレゼンテーションと討議内容 30%、レポート 20% (課題等については授業の中で提示) 在宅看護 プレゼンテーションと討議内容 30%、プレゼンテーション資料 20%									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当					
1 ～ 4	毎 週 木 曜 日 6 限 目	家族看護に関連した理論と活用方法	研究論文やテキストを活用した家族看護に関連した理論と具体的活用方法 〈例〉家族アセスメント、円環モデル、エンパワーメント、ジェノグラム 等	文献をよく吟味し、自分の言葉で説明できるように、プレゼンテーションの準備をする	桂					
5 ～ 7		日本の家族の現状と課題	歴史的変遷を踏まえた家族の現状と課題を統計及び文献を基にプレゼンテーションと意見交換							
8 ～ 9		家族看護における看護の専門性と課題	家族看護における看護の専門性について、国内外の文献を基にプレゼンテーションと意見交換							
10 ～ 13		在宅ケアの現状と課題	歴史的変遷を踏まえた在宅ケアの現状と課題、看護の役割についてプレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備				鈴木		
14 ～ 15		在宅療養者への看護にかかわる課題	訪問看護や通所サービス提供事業所、医療機関の外来、地域連携部署等在宅ケア関連機関・組織における看護の課題についてプレゼンテーション、討議							
教科書 参考図書	参考書 鈴木 和子他著：家族看護学 理論と実践 第5版. 日本看護協会出版会 中野 綾美他著：家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア. メディカ出版 山崎あけみ他編：看護学テキスト NiCE 家族看護学 臨床場面と事例から考える 第3版. 南江堂									
履修上の注意	主体的に課題やテーマに沿った論文や報告を探索してください。									
学生へのメッセージ	活発なディスカッションへの参加（など、積極的な姿勢）を望みます。									
e-mail・研究室 (連絡先)	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp									

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
家族・在宅看護学特論演習 (専門科目)	教授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	可
授業概要	国内外の文献や既存の理論を踏まえて、看護学の立場から家族の機能と関連要因との関係を明らかにし、その支援方法を開発する。また、在宅療養者と家族への支援について、社会資源の活用と地域ケアシステムの構築とともに理解を深める。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族に関する理論と看護の専門性を認識できる。 2. 家族の機能と機能不全につながる関連要因を考慮した支援方法を開発できる。 3. 在宅療養者と家族への支援方法、社会資源の活用と地域ケアシステムの構築について考察できる。 4. 自己の研究課題との関係から、家族看護・在宅看護を考察できる。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の機能と機能不全につながる関連要因の関係を、既存の論文をとおして説明できる。 2. 家族への支援方法を分析し、評価するとともに家族に適切な支援方法を説明できる。 3. 現在の家族が持つ課題を明確にし、家族に対する看護職の役割と専門性について実践的に説明できる。 4. 在宅療養者と家族への支援における多職種連携の在り方について説明できる。 5. 社会資源の活用と地域ケアシステムの構築について探求できる。 6. 自己の研究との関連から、家族や在宅看護を探求できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	家族看護 プレゼンテーションと討議内容 30%、レポート 20% (課題等については授業の中で提示) 在宅看護 プレゼンテーションと討議内容 30%、プレゼンテーション資料 20%						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など	担当	
1 ～ 4	毎週 月曜日 5-6 限目	家族の機能と機能に関連する関連要因の検討	既存論文を精読し、課題に対する研究の意義 プレゼンテーション、検討する。 〈例〉家族の変貌と課題		プレゼンテーション の準備	桂	
5 ～ 10		家族の機能不全を予防する家族への支援方法	既存論文及び特論で取り上げた項目を基本に 家族の機能不全を予防するための家族への支 援方法を評価・再構築する。				
11 ～ 16		家族看護における看護の専門性と課題	家族看護における看護の専門性について、文 献に基づき、プレゼンテーション、意見交換 及び検討する				
17 ～ 18		在宅療養者と家族への支 援	看書連携、他職種連携を基盤とした在宅療養 者と家族への支援方法に関するプレゼンテー ション、討議		プレゼンテーション の準備	鈴木	
19 ～ 24			社会資源の活用や地域ケアシステムの構築を 基盤とした在宅療養者と家族への支援方法に 関するプレゼンテーション、討議				
25 ～ 30	在宅看護に関連する論文と自分の研究課題に 関連する論文を精読してプレゼンテーショ ン、討議						
教科書 参考図書	特に指定しない。						
履修上の注意	主体的に課題やテーマに沿った文献を探索し、自分の考えをまとめてください。						
学生への メッセージ	活発なディスカッションへの参加など、積極的な姿勢を望みます。						
e-mail・研究室 (連絡先)	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生						
成人看護学特論 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル	博士前期課程 1年	前期	2	30	選択	可						
授業概要	成人看護学領域に関する研究を行うための基本となる概念および理論について学ぶ。												
一般目標	1. 成人看護学領域での研究課題と動向を理解し、そのエビデンスを検討する。 2. 成人看護学領域に関する研究で活用されている概念・理論を理解する。 3. ディスカッションにより取り組む研究課題について理解を深める。												
到達目標	1. 成人看護学領域での研究課題および研究の動向を理解できる。 2. 成人看護学領域における文献をクリティークできる。 3. 成人看護学領域における研究で活用されている概念・理論を説明できる。 4. 成人看護学領域における研究課題および研究の動向について討議できる。 5. ディスカッションに積極的に参加し、論理的に自分の意見を表現できる。 6. 既習内容を自分の研究に応用して、研究計画書の作成ができる。 7. プレゼンテーションおよび研究計画発表に向けて計画的に準備ができる。												
成績評価方針 評価方法 および基準	方針：研究課題の明確化につながる基本的な理論の理解、文献クリティーク、論理的な思考に基づく討議を重視する。 方法：プレゼンテーション 30%、ディスカッションへの参加態度 30%、レポート 40% 基準：到達目標に沿って基本的な理論・概念の理解と学習方法の習得を評価する。												
授業形式	対面もしくは遠隔授業（状況により受講生とも相談の上、決定します）												
授業計画													
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当								
1	毎 週 木曜日 6限目 (401会議室)	成人看護学(慢性)領域における研究の動向	授業の進め方、目的・目標 関心ある研究テーマについて研究の動向と課題について、討議する	関心ある研究テーマについてレポートする	遠藤 (和) 山田								
2		成人看護学領域における国内外の研究の動向	文献の選択方法 関心のある研究テーマに関係する文献のクリティーク	文献クリティークの方法について事前に調べてくる。提示された文献を抄読し報告する									
3		周辺領域の理論・文献の検討	研究の基盤となる理論や概念の検討	文献を抄読する									
4				検討結果を基に学習成果をレポートする									
5				成人看護学(慢性)領域における看護理論の理解				関心領域に関連する理論の検討 ・看護理論家の理論から1つ以上	選択した理論についてレポートし、検討会後に成果をまとめる				
6		成人看護学(慢性)領域における概念の理解	関心領域に関連する概念の検討 ・軌跡、病の語り、移行など看護実践に応用されている概念から1つ以上 ・介護、女性、ジェンダーなど						選択した概念を説明し実践事例と結びつけて解説する				
7									成人看護学(慢性)領域における技術に関する理論・概念の検討	技術、教育などに関する概念の検討	実践事例を基に事前に作成したレポートを基に検討		
8											まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめる
9													まとめ
10		まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめる									
11		まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめる									
12		まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめる									
13		まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめる									
14		まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめる									
15		まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめる									
教科書 参考図書	随時提示します。												
履修上の注意	文献や理論書を読む力を必要とします。講義はゼミ形式で行います。												
学生への メッセージ	これまでの実践を理論や概念を用いてことばで説明すること、とにかく書くことを心がけてください。												
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤 和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山田カオル：研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp												

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
成人看護学特論演習 (専門科目)	教授・遠藤 和子 講師・山田カオル	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	成人看護学領域に関連する先行研究のクリティークにより広い視点から探究し、自分の研究課題を明確にする。また、先行研究の検討およびディスカッションを踏まえて自分の研究計画を立案する。						
一般目標	1. 先行研究のクリティークを通して研究課題の明確化、焦点化する。 2. ディスカッションを通して研究課題達成への研究計画を立案する。 3. 研究におけるプロセスを修得する。						
到達目標	1. 先行研究を研究の目的、意義・意味、限界等の視点から分析できる。 2. 先行研究をクリティークし、研究課題の明確化、研究計画の立案に活用できる。 3. 研究課題を明確にし、研究計画の立案ができる。 4. 立案した研究計画における倫理的配慮について説明できる。 5. ディスカッションにおいて、積極的に自己の見解を表現できる。 6. 効果的なディスカッションを導く資料準備、自己学習ができる。 7. 研究計画を時間内にわかりやすくプレゼンテーションできる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	方針：先行研究の分析力、プレゼンテーション力、ディスカッション力、資料作成力を評価する。 方法：プレゼンテーション40%、ディスカッション30%、資料作成30% 基準：各到達目標の研究課題の焦点化・研究計画立案における到達度をみる。						
授業形式	対面もしくは遠隔授業（状況により受講生とも相談の上、決定します）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1~5	毎 週 木 曜 日 6-7 限 目 (401 会 議 室)	研究課題の明確化 事例検討 先行研究のクリティーク	自己の研究課題を明確にする 自己の事例を記述する 自己の研究課題に関連する先行文献 を精読してプレゼンテーションする	自己の研究課題、研究 デザインや方法に関連 する学会やセミナーに 積極的に参加する。	遠藤 (和) 山田		
6~8		文献検討 成人看護学領域の重要な 概念と理論と実践の 結び付け	研究の基幹となる理論と概念を明確に する プレゼンテーションおよびディスカ ッション				
9~		研究計画の立案 研究デザイン検討	文献検討を通して、自己の研究課題に即 した研究デザインを検討する。				
~25		研究方法の検討 倫理的配慮の検討	文献検討を通して、データ収集の方法、 分析方法についてディスカッションし ながら検討する。 倫理的配慮を検討し、倫理審査申請書 を作成する。				
26~ 30		研究計画のプレゼン テーション					
教科書 参考図書	随時提示する						
履修上の注意	プレゼンテーション資料は前日までに教員・学生に配布する。						
学生への メッセージ	関心のある研究課題の先行研究を検索し、十分に検討したうえでプレゼンテーションやディスカッションに臨んでください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤 和子：研究室 13 kaendo@yachts.ac.jp 山田カオル：研究室 33 kaoyamada@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
老年看護学特論 I (専門科目)	教授・齋藤 美華 非常勤講師・後藤 慶	博士前期課程 1年	前期	2	30	老年看護 CNS 必修	可
授業概要	老年看護学を実践するための理論や概念の理解を深めるための理論的基盤となる諸理論を学ぶ。また、老年看護学における論理的思考や倫理的課題への基盤をつくる。老人看護専門看護師への理解を深め、役割を探究する。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の基礎としての老化・加齢の理論と背景を理解する 2. 老年看護実践に必要な看護理論を理解する。 3. 老年看護における倫理的課題を理解し、解決方法を考察する。 4. 老年看護の課題の明確化、専門看護師としての役割を理解する。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護に関する諸理論や概念について説明できる。 2. 高齢者の現状について、理論や概念を用いて説明できる。 3. 高齢者への看護介入に関する概念や理論を用いて看護援助を考えることができる。 4. 老年看護の動向と倫理的課題について分析でき、倫理調整について説明できる。 5. 老年看護の諸問題、研究の現状と分析ができ、課題の探究ができる。 6. 老人看護専門看護師の役割・機能について自分の考えを述べるができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業の事前準備(関連文献・書籍の通読等)・プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1~3	毎週 水曜日 5限目	老年看護における理論と概念	老年期の発達課題と心理的発達、エイジング、高齢者の健康とQOL、生きがい、ICFの概念と高齢者	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤		
4~6		老年看護実践のための理論と概念(1)	サクセスフルエイジング [®] 、ウェルネスアプローチ、ライフストーリー、End of Life、ICF、ケアリング	文献検討およびプレゼンテーションの準備			
7~9		老年看護実践のための理論と概念(2)	セルフケア理論、エンパワーメント、person centered care、役割理論、コンフォート理論	文献検討およびプレゼンテーションの準備			
10~13		老年看護実践領域での倫理的課題	エイジズム、高齢者虐待 老年看護領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整(事例検討)	文献検討およびプレゼンテーションの準備			
14、15		老年看護学実践・研究の課題と老年看護専門看護師の役割	老年看護の実践、研究の現状と課題 老人看護専門看護師の役割・機能	文献検討およびプレゼンテーションの準備			
教科書 参考図 書	授業中に指定する。						
履修上の注意							
学生への メッセージ	主体的に取り組むこと						
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
老年看護学特論演習 (専門科目)	教授・齋藤 美華	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	老年看護学領域の対象者と家族に特徴的な健康および健康問題について、国内外の文献検討をとおして学び、老年看護学研究を行う上で必要な方法論を学ぶ。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある高齢者の研究課題に関連した文献を批判的に吟味するとともに、周辺領域についても理解を深めることができる。 2. 課題設定を行い、その課題を探求していく上で依拠する前提や理論を検討できる。 3. 研究目的に適した研究方法について理解を深める。 4. 研究計画を立案し、プレゼンテーションならびにディスカッションをとおして、方法論を吟味・推敲できる。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の研究課題に関連した文献を批判的に吟味することができる。 2. 老年看護に関連した領域の文献をとおして、その課題を説明できる。 3. 自らの関心に基づき、老年看護において探求・解決すべき課題を説明できる。 4. 課題設定を行い、その課題を探求していく上で依拠する前提や理論を説明できる。 5. 研究目的に適した研究方法について探求できる。 6. 研究計画を立案し、方法論を説明できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業の事前準備(関連文献・書籍の通読等)・プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	毎 週 水 曜 日 4-5 限目	ガイダンス	演習の進め方 論文を例示する		齋藤		
2~4		地域における高齢者のヘルスプロモーション	地域における高齢者のヘルスプロモーションに関する現状と課題について文献検討により明確にした上で、今後の研究における課題について討議する。	文献検討・プレゼンテーションの準備			
5~7		要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーションに関する文献検討	要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーションに関する現状と課題について文献検討により明確にした上で、今後の研究における課題について討議する。	文献検討・プレゼンテーションの準備			
8~10		高齢者の看取りに関する文献検討	高齢者の看取りに関する現状と課題について文献検討により明確にした上で、今後の研究における課題について討議する。	文献検討・プレゼンテーションの準備			
11~30		研究テーマの構築	自分の研究課題に関連する論文を精読し、研究テーマを構築するとともに研究デザインを具体的に検討する。	文献検討・プレゼンテーションの準備関連する学会への参加			
教科書 参考図書	授業中に指定する。						
履修上の注意							
学生への メッセージ	主体的に取り組むこと						
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生													
老年看護学特論Ⅱ (専門科目)	教授・齋藤 美華	博士前期課程 1年	前期	2	30	老年看護 CNS 必修	否													
授業概要	高齢者の健康生活上のニーズについて、身体的・心理・精神的・社会的、環境の側面から包括的にアセスメントするために必要な評価方法を探求する。また、これらについて理論および研究成果に基づいた探求を行う。																			
一般目標	1. 高齢者を身体的、心理・精神的、社会的、環境の側面から包括的に評価、アセスメント方法を理解する。 2. 高齢者の健康生活評価による看護について理解する。																			
到達目標	1. 高齢者の身体的、心理・精神的、社会的、環境の側面から包括的に評価する意義を説明できる。 2. 高齢者の転倒に関するリスクおよび評価、転倒防止について説明できる。 3. 高齢者の栄養および摂食・嚥下機能の評価について説明できる。 4. 高齢者の療養環境の評価および家族に関する評価を説明できる。 5. 高齢者の健康生活評価に基づく看護について討議することができる。																			
成績評価方針 評価方法 および基準	授業の事前準備(関連文献・書籍の通読等)・プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。																			
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)																			
授業計画																				
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学 習など	担当															
1	毎週 水曜日 1限目	高齢者の健康生活評価の意義	高齢者の健康生活評価の目的および基本的な考え方、総合的機能評価の意義と活用方法について学修する。	プレゼン テーショ ンの準備	齋藤															
2		身体的機能の評価と 実際	以下項目の評価およびアセスメント ADL・IADLの評価と注意点、高齢者の栄養の評価とリスク、摂食・嚥下機能の評価、高齢者総合機能評価(CGA)、転倒リスクの評価、疼痛に関する評価、自律神経の評価：排尿障害、血圧変動、起立性低血圧などについて学修する。			齋藤														
3							認知機能・心理的機能 および社会的機能の 評価と実際	認知機能評価：認知症スクリーニング法と評価スケール、精神心理の評価：気分、抑うつ、モラール・QOL((生活満足度の評価、主観的健康観、SF-36)、ストレス評価などについて学修する。		齋藤										
4											生活環境の変化と環境調整	高齢者の療養環境評価法と環境調整法の理論と実際、環境理論を踏まえて、療養生活での人的・物理的環境、家族に関する諸理論を踏まえて、家族機能および家族の介護力、介護負担などの評価、SBS、経済状態の評価等について学修する。		齋藤						
5															健康生活評価と看護	高齢者の健康生活評価と健康生活を支える看護について討議する。		齋藤		
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
教科書 参考図書	授業中に指定する																			
履修上の注意																				
学生への メッセージ	主体的に取り組むこと																			
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp																			

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生	
老年看護学特論Ⅲ (専門科目)	教授・齋藤 美華 名誉学長・前田 邦彦 教授・村 成幸 教授・菊池 昭夫 名誉教授・八巻 通安	博士前期課程 1年	通年	2	30	老年看護 CNS必修	否	
授業概要	老年期に頻度の高い疾患や症候に関する診断、検査、治療の理解を深め、これらが及ぼす生活への影響、高度な看護判断、専門的な看護実践を通して、高齢者の生活維持への支援について探求する能力を養う。							
一般目標	高齢者の主要疾患・徴候、症状に関する診断基準や診察・検査の読み方を知ること、身体管理に関する留意点を学び、生活への影響を理解し、看護実践に関連づける。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に多い疾患の病態、診断・治療を説明できる。 2. 高齢者が留意すべき全身徴候とアセスメントについて説明できる。 3. 急性増悪の予兆および対処方法を具体的に述べるができる。 4. 病態、診断・治療を踏まえて看護臨床判断に活かすことができる。 5. 病態や検査、治療が高齢者の生活に及ぼす影響を述べるができる。 							
成績評価方針 評価方法 および基準	授業の事前準備(関連文献・書籍の通読等)・プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。							
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)							
授業計画								
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習 など	担当			
1	毎週 水曜日 2限目	老年期における留意すべき 全身徴候とアセスメント	加齢に伴う細胞・代謝の変化、脱水、尿失禁、せん妄、うつ、皮膚掻痒感、便秘・下痢など	プレゼンテーションの 準備	齋藤			
2								
3		脳血管疾患および神経疾患 の病態と診断と治療	高齢者にみられる疾患の病態生理、診断、アセスメント、治療 (脳梗塞、脳血管障害、パーキンソン病)		菊池			
4								
5		言語・聴覚のアセスメント	言語、聴覚障害の病態生理・診断、アセスメント、治療(失語症)		菊池			
6		嚥下障害の診断と治療	嚥下障害の病態生理、診断、治療					
7		循環器疾患の病態と診断・ 治療	病態生理、診断、アセスメント、治療(高血圧、心筋梗塞、心不全など)		八巻			
8								
9		呼吸器疾患の病態と診断・ 治療	病態生理、診断、アセスメント、治療(肺炎、慢性閉塞性肺疾患など)		八巻			
10								
11		運動器疾患の病態と診断・ 治療	病態生理、診断、アセスメント、治療(骨折、骨粗鬆症、関節リウマチなど)		村			
12								
13		感染症の病態と診断・治療	臨床の場での主な感染症の病態生理、診断、アセスメント、治療		前田			
14								
15		診断・治療過程における高 齢者看護の包括的アセス メント	事例検討を通して、複数の疾患を抱えながら生活する高齢者の病態生理、診断、治療を踏まえた看護臨床判断、検査・治療が高齢者の生活に及ぼす影響を包括的にアセスメントする		齋藤			
教科書	その都度資料配布および文献を紹介する。							
履修上の注意	事前に提示する課題や資料を自己学習して授業に臨む。							
学生への メッセージ								
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤：研究室1 misaito@yachts.ac.jp 村：研究室35 nmura@yachts.ac.jp 菊池：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp							

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生	
老年看護学特論Ⅳ (専門科目)	教授・齋藤 美華 非常勤講師・後藤 慶	博士前期課程 1年	通年	2	30	老年看護 CNS必修	否	
授業概要	高齢者の継続看護を展開するために必要な高齢者と家族の看護に関する実践理論を理解し、高齢者の生活における高齢者と家族の倫理的課題および具体的な看護実践と研究の統合について探求する。							
一般目標	1. 高齢者を包括的にアセスメントする。 2. 生活における高齢者と家族の課題を明確化し、支援方法を理解する。 3. 複雑な健康問題を抱える高齢者と家族への看護を考察する。							
到達目標	1. 高齢者および家族を包括的にアセスメントできる。 2. 高齢者の生活機能を整えるための支援方法を検討できる。 3. 高齢者と家族における倫理的課題および支援方法を検討できる。 4. 終末期における高齢者と家族への支援を述べるができる。 5. 事例を通して、複雑な健康問題を持つ高齢者と家族の支援方法について、最新の文献を活用して具体的に述べるができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	授業の事前準備(関連文献・書籍の通読等)・プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。							
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)							
授業計画								
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学 習など	担当			
1	毎 週 水曜日 3限目	加齢に伴う生活への 影響	加齢の変化および環境の変化に伴う日常生活への影響	プレゼン テーショ ンの準備	齋藤			
2		高齢者に特徴的な症 状に対する看護	高齢者に特徴的な症状(歩行困難、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、皮膚掻痒感、痛み、尿失禁、便秘・下痢、不眠、転倒、せん妄など)に対する援助			齋藤		
3								
4								
5								
6								
7		高齢者の生活機能を 整えるための看護	加齢に伴う変化における高齢者の生活機能(コミュニケーション、食事:摂食・嚥下障害、排泄:尿・便失禁、清潔:皮膚掻痒感、活動:動作移動障害、休息:不眠)のアセスメントと生活機能を維持・向上させるための援助 (倫理的判断を含む事例の検討)			齋藤		
8								
9								
10								
11		終末期にある高齢者 および家族への援助	終末期の身体的特徴、緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護			齋藤		
12								
13		複雑な健康問題を抱 えた高齢者と家族へ の看護	複雑な健康問題抱えた高齢者および家族に対する最新の知識と技術を活用した看護展開の検討(事例検討)			後藤 (CNS)		
14								
15								
教科書 参考図書	授業内で提示する							
履修上の注意								
学生への メッセージ	主体的に取り組むこと							
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華:研究室1 misaito@yachts.ac.jp							

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
老年看護学特論V (専門科目)	教授・齋藤 美華 教授・桂 晶子 准教授・鈴木 育子	博士前期課程 1年	通年	2	30	老年看護 CNS 必修	否
授業概要	国内外の高齢者保健医療福祉制度や政策の現状について学び、高齢者ケアに関する社会的背景や現状から課題を分析し、高齢者・家族への支援のあり方や他職種との連携と協働を理解し、医療・ケアの質を保証することができる能力を養う。また、事例を通して、提供するケアや支援の改善および構築を推進するプロセスを学び、ケア改善への提案を実践するための能力を修得する。						
一般目標	1. 国内外における高齢者保健医療福祉の制度と政策を理解する。 2. 高齢者と家族に対する支援の現状と課題を理解する。 3. 複雑な背景を持つ高齢者と家族の課題解決に向けた施策を探求する。						
到達目標	1. 国内外の高齢者保健医療福祉制度や政策について説明することができる。 2. 日本の高齢者と家族に関する保健医療福祉政策の現状と課題を分析することができる。 3. 他職種との連携と協働について分析し、専門看護師の役割を述べるすることができる。 4. 事例を通して、高齢者と家族に対する支援についての検討ができる。 5. 複雑な背景を持つ高齢者と家族の課題解決に向けた施策の立案ができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業の事前準備(関連文献・書籍の通読等)・プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習 など	担当		
1	毎週 水曜日 4限目	国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷サポートシステムの現状と動向	日本における高齢者に関する保健医療福祉の制度・施策の変遷を理解し、諸外国における高齢者・家族への保健医療福祉制度・施策との比較を行う。また、高齢者と家族におけるサポートシステムの意義、日本における高齢者と家族のサポートシステムの現状と課題を分析する(文献検討および討議)	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤		
2							
3							
4		高齢者と家族のための支援	各専門職の役割、他職種との連携と協働の現状と課題、高齢者および家族への支援(フォーマル・インフォーマル)の現状と課題を踏まえて、高齢者の支援のための組織化と活用について最新の研究および施策などから検討する。	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 桂 鈴木		
5							
6							
7							
8		保健医療福祉制度を踏まえた高齢者と家族への支援方法の検討	高齢者および家族への支援、他職との連携を踏まえて、ケアの継続を図るための高齢者・家族への支援のあり方について事例を用いて検討する。	事例検討・プレゼンテーションの準備	桂 鈴木		
9							
10							
11		複雑な背景を持つ高齢者と家族に対する支援の開発	複雑な健康障害や家族関係を持つ高齢者と家族に対するケアシステムの現状と課題を分析し、改善のための施策を立案することを通して、開発能力を養う。(企画案作成、発表・討議)	課題検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 桂 鈴木		
12							
13							
14							
15							
教科書 参考図書	授業中に指定する						
履修上の注意							
学生への メッセージ	授業は、講義、各講義内容に応じた関連文献の講読、発表・討議により行う						
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
老年看護展開論Ⅰ (専門科目)	教授・齋藤 美華 教授・菊池 昭夫 非常勤講師・後藤 慶	博士前期課程 1年	通年	2	60	老年看護 CNS 必修	否
授業概要	認知症高齢者と家族の状況を分析し、倫理的な判断を踏まえて認知症高齢者に対する高度な看護実践が展開できる看護実践力を養う。また、フィールドワークを通して認知症医療の実際を知り、認知症看護の課題を抽出し、関連する文献や知識、討議を活用して課題解決のための方略を探求する。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症高齢者を取り巻く環境を理解し、包括的にアセスメントする。 2. 認知症の病態、症状、診断・治療を最新の知識・研究に基づき理解する。 3. 認知症高齢者と家族の抱える倫理的課題および支援方法を理解する。 4. 認知症高齢者のケアにおける他職種との連携・協働の意義を理解する。 5. 認知症高齢者の看護実践の課題と解決方略を検討する。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症高齢者の身体的、心理的、社会・経済的影響を包括的にアセスメントできる。 2. 認知症の病態、諸症状、診断・最新の治療について説明できる。 3. 認知症高齢者および家族の抱える倫理的課題について分析・考察できる。 4. 認知症高齢者の看護における他職種との連携の意義を述べることができる。 5. 認知症高齢者・家族の現状を踏まえ、最新の文献を活用して課題解決に向けた解決策を述べるができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業の事前準備(関連文献・書籍の通読等)・プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。						
授業形式	対面授業(遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習など	担当		
1 ～ 3	毎 水 曜 日 2-3 限 目	認知症高齢者の理解と 基本理念	認知症高齢者の理解、本人が抱える課題と社会状況、身体的、心理的、社会・経済的影響、認知機能の評価と看護実践、認知症高齢者に対する看護の基本、パーソンセンタードケアと看護	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤		
4 ～ 5		認知症の病態・診断 ・治療	認知症の病態生理、検査と診断、中核症状とBPSD、治療(薬物、非薬物)、認知機能のメカニズム(記憶、情動と帰属)	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	菊池		
6 ～ 7		認知症高齢者と家族に 対する支援	認知症高齢者の日常生活への援助、環境的アプローチ(validation、activity)、家族への影響、認知症の予防、非薬物的療法とその効果	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤		
8 ～ 10		認知症高齢者の看護	認知症高齢者と家族に対する看護判断・計画立案(事例検討)	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤		
11 ～ 12		他職種との連携・協働	認知症高齢者および家族の課題 地域のサポートチームとの協働、認知症ケアにおける専門看護師の役割、サポートグループの活用	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	後藤 (CNS)		
13 ～ 26		認知症高齢者への アプローチ(1) フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤		
27 ～ 30		認知症高齢者への アプローチ(2) 発表と総括	フィールドワークでの体験を通して、認知症高齢者と家族への看護実践の課題と倫理的側面について最新の文献を活用して、解決方法を検討する。	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤		
教科書・参考図書	授業中に指定する						
履修上の注意							
学生へのメッセージ	事前に提示した資料を自己学習し、提示された課題資料を作成して授業に臨む						
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位 数	時間数	必修・選択の 別	科目等 履修生
老年看護展開論Ⅱ (専門科目)	教 授・齋藤 美華 非常勤講師・後藤 慶	博士前期課程 2年	前期	2	60	老年看護 CNS必修	否
授業概要	健康障害を持つ高齢者の急性期における様々な病態とその影響について包括的にアセスメントし、ケアと キュアの融合を導くケアについて学ぶ。また、根拠や研究を活用して、倫理的判断を踏まえ、高度な看護実 践を展開する能力を養う。						
一般目標	急性期にある高齢者の特徴および治療による影響について包括的にアセスメントし、高度な看護実践を展開す る能力を養う。						
到達目標	1. 複雑な問題を持つ高齢者の健康問題や健康生活を包括的にアセスメントし、専門的知識と技 術を用いて、看護計画の立案を行い、問題解決を図ることができる。 2. 急性期における複雑な課題を持つ高齢者と家族への看護実践の有効と課題を分析できる。 3. 急性期にある高齢者および家族の退院に向けての調整を行う。 4. フィールドワークを通して、急性期看護における高齢者および家族の課題を明確にし、ケアの継続を踏ま えて課題解決方法を考えることができる。 5. 自らの看護実践の課題を明確し、理論、文献を活用して分析できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業中の参加態度・課題の取り組み (30%)、フィールドワークの内容・記録 (30%)、課題レポート (40%) により評価する						
授業形式	対面授業 (遠隔授業となる場合があります)						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習 など	担当		
1 ～ 3	後日連絡	急性期における 高齢者の特徴と 看護の基本	急性期の高齢者の特徴 (病態とケア) 急性期の高齢者の健康状態の評価 身体的治療の高齢者への影響 急性期における高齢者の理論と看護	文献検討・プ レゼンテー ションの準 備	齋藤		
4 ～ 7		急性期看護に関 する文献検討	グローバルな視点から、高齢者の急性期看護および退 院調整に関連する最新の文献の検索・検討		齋藤		
8 ～ 11		急性期看護にお ける倫理的課題 の検討	急性期看護における倫理的課題について、事例を用い て検討 (せん妄、栄養障害、抑制など)		齋藤 後藤 (CNS)		
12 ～ 20		急性期における 高齢者への看護 実践	1. 高度な集中ケアが必要な高齢者と家族への看護 ①高齢者の包括的アセスメント ②高齢者へのケアの検討 (バイタルサイン、摂食・ 嚥下障害、便秘・下痢、意欲低下、せん妄など) ③高齢者の家族に対するアセスメントと看護 2. 事例を用いて、医療依存のある高齢者と家族の退 院に向け他職種との調整、倫理的調整について検 討する。		門馬康介 (CNS) 後藤 (CNS)		
21 ～ 26		フィールドワー ク	①急性期看護の実践について、ケアやカンファレン ス、評価会議などに参加する。 ②急性期の高齢者における倫理課題の実際 ③医師のクリニカルラウンド、カンファレンスに参 加し、診断、検査、薬物療法、処置を学ぶ。		門馬康介 (CNS)		
27 ～ 30		フィールドワー クの発表と総括	フィールドワークを踏まえて文献を活用し、急性期に ある高齢者の看護の実際、看護の継続や課題および解 決方略の検討		齋藤 後藤 (CNS)		
教 科 書 参 考 図 書		その都度提示する。事前に提示する課題・資料を自己学習して授業に臨む。					
履 修 上 の 注 意							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業は、講義、各講義内容に応じた関連文献の講読、発表・討議により行う						
e-mail・研究室 (連 絡 先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
老年看護学実習 I (専門科目)	教 授・齋藤 美華 非常勤講師・後藤 慶	博士前期課程 1年	後期	4	180	老年看護 CNS 必修	否
授業概要	専門科目で学習した内容を統合して、認知症高齢者とその家族に対する包括的なアセスメントおよび高度な看護実践能力を修得する。また、認知症高齢者および家族、専門職間が抱える倫理的葛藤への調整、円滑なケアのための他職種との調整、認知症看護の専門性について学ぶ。さらに、参加観察を通して老人専門看護師の役割と機能について学ぶ。						
一般目標	認知症高齢者および家族を包括的にアセスメントし、高度な専門的看護実践能力を修得する。また、認知症高齢者の意思決定を支援するとともに倫理的葛藤における倫理調整を行う。さらに、専門看護師としての役割・機能を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加観察を通して、看護実践、相談、調整、コンサルテーションなどの専門看護師の役割と機能について具体的に述べるができる。 2. 認知症高齢者とその家族に対する包括的なアセスメントをもとに、高度な看護実践を展開し、評価する。 3. 認知症高齢者の看護に関わるスタッフおよび他部門、他施設などとの調整機能を具体的に述べるができる。 4. 認知症高齢者と家族、専門職間の倫理的調整について説明することができる。 5. 認知症高齢者への看護の課題、専門看護師の教育的働きかけ、研究活動について述べるができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	実習場面での評価 (60%)、実習レポート (40%) 実践場面では、問題解決展開力・学習力・分析力を、実習レポートではプレゼンテーション力・内容から総合的に評価する。						
授業形式	臨地実習						
授業計画							
回	日付	学習課題・学習内容・学習方法				授業外学習など	担当
	後日連絡	<p>【実習 1st レベル】 CNS 役割実習</p> <p>専門看護師として、包括的アセスメント能力(疾患や治療の生活への影響、高齢者の軌跡や価値観、信念などの統合)と看護実践能力を養い、ケアの質の向上を目指し、専門看護師の役割と機能を果たすために、教員および実習指導者と協議しながら自立して実習計画、実習環境を調整する。</p> <p>高齢者専門医療施設 (4 週間以上) 実習施設：北村山公立病院 (予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師役割実習 (1 週目) <ol style="list-style-type: none"> ① 老年専門看護師の役割を参加観察し、看護実践の実際 (看護実践、スタッフの相談・教育、他部門との調整、倫理調整など) について事例検討やカンファレンスへの参加を通して、看護の質の確保、業務改善のための取り組みについて学ぶ。 ② 他職種によるケア会議に参加し、現象の分析、他職種との協働を検討する。 ③ 医療機関の研究や研修、継続教育に参加し、専門看護師の行っている業務改善や組織改革のための取り組みについて学修する。 2. 認知症高齢者への高度な看護実践 (2~4 週) <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症高齢者と家族 3 事例に対して、包括的アセスメントを活用し、高度な看護実践を行い、評価する。 ② 高齢者と家族の特性をふまえて、他職種との協働・連携を図りながら専門的な看護実践を行い、評価する。 ③ ケースカンファレンスにおいてケアに関する評価を検討する。 ④ 実践現場で可能な限り改善や開発的な活動を検討する。 ⑤ 実践したケースに関する実習レポートを作成し、指導者・他職種・教員からのフィードバック、スーパービジョンを受け、自己の課題を明確にする。 				課題および事例の検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 指導者 後藤 (CNS)
教科書 参考図書	特に指定しない						
履修上の注意							
学生への メッセージ	実習施設と協働し、適宜ケースカンファレンスを行い、評価を受ける。終了時には実習事例、課題について実習レポートをまとめ、発表する。						
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室 1 misaito@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生	
老年看護学実習Ⅱ (専門科目)	教 授・齋藤 美華 非常勤講師・後藤 慶	博士前期課程 2年	後期	6	270	老年看護 CNS 必修	否	
授業概要	急性期にある高齢者のケアとキュアの統合の視点を持ち、エビデンスに基づく高度な専門的知識と技術を用いて看護実践を修得する。また、高齢者と家族に対する高度な退院支援を修得する。高齢者と家族に効果的なケアを提供するために調整（倫理的調整も含む）、相談、教育活動についての展開方法を修得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期にある高齢者の身体・精神・生活、検査・診断・治療・薬物の影響をアセスメントできる。 高齢者および家族に適切な看護判断に基づき、高度な看護援助の実施・評価ができる。 医療依存度の高い高齢者の退院に向けて、多職種と連携しながら支援できる。 看護実践について、専門的知識と技術、最新の知見を活用して論理的に分析できる。 高齢者と家族に効果的なケアを提供するための調整（倫理的調整も含む）、相談、教育活動が修得できる。 							
成績評価方針 評価方法 および基準	実践場面での評価（60%）、実習レポート（40%） 実践場面では、問題解決のための展開力・学習力・分析力を評価し、教育・相談・調整の視点から評価する。実習レポートは、ケースレポート発表でのプレゼンテーションまたは課題レポート（高度な看護実践する専門看護師としての自己課題の明確化と考察）で評価する。							
授業形式	臨地実習							
授業計画								
回	日付	学習課題・学習内容・学習方法					担当	
		2nd レベル 役割統合実習（6週間以上） 1. 役割統合実習Ⅰ 3単位（3週間以上） 【目標】 高度な集中ケアが必要な高齢者と家族の状況に応じて、質の高い看護実践活動を行うために必要な高度なアセスメント能力と実践能力を養う。また、ケアの質の向上に向けて調整（倫理的調整を含む）、相談、教育活動を修得する。 【学習方法】 上記の目標を達成するための実習計画を立案し、CNS と担当教員からスーパービジョンを受ける。また、高齢者および家族を対象にキュアとケアを統合した看護計画の立案、実施、評価を CNS と一緒に実施する。CNS とともに行動し、看護実践に必要な調整、相談、教育活動に参加する。 【学習内容】 <ol style="list-style-type: none"> 高度な集中ケアを必要とする高齢者を2事例受け持ち、医師や薬剤師、コメディカルなどの資源を活用して、高齢者と家族の生活の質を高めるための高度な看護実践を CNS とともに実施する。（合併症、認知症、呼吸・循環・水分などの管理等） 高齢者への高度な看護実践を行いつつ、CNS が行う調整、相談、教育活動に参加する。 看護スタッフ、他の専門職と連携し、専門職間の調整を CNS の指導のもと、参加する。 病院の実施している研究的取組や事例検討、カンファレンスに参加する。また、必要時に文献や最新の知見等の情報を提供する。 2. 役割統合実習Ⅱ 3単位（3週間以上） 【目標】 医療依存度の高い高齢者、および家族の状況に即した高度な退院支援について修得する。また、高齢者と家族の退院を効果的にするための調整、相談、教育活動について修得する。 【学習方法】 上記の目標を達成するための実習計画を立案し、CNS と担当教員からスーパービジョンを受ける。また、医療依存度の高い高齢者の退院に関する支援について、CNS とともに行動し、退院に必要な調整、相談、教育活動に参加する。2事例のケースを受け持ち、ケースレポートを作成し、ケースカンファレンスを実施する。うち1事例は、CNS の指導のもとで医療依存度の高い高齢者の退院支援を展開する。終了後は課題レポートを作成する。 【学習内容】 <ol style="list-style-type: none"> 医療依存度の高い高齢者を2事例受け持ち、退院に向けて高齢者と家族に対する高度な看護実践に参加し、うち1事例は CNS の指導のもとで展開する。 医療依存度の高い高齢者の退院に向けた、看護スタッフおよび他部門・他施設・地域・多職種の調整、相談、教育活動に CNS の指導のもと、参加する。 病院の実施している研究的取組や事例検討、カンファレンスに参加し、必要時に文献や最新の知見についての情報を提供する。 					齋藤	指導者 門馬康介 (CNS)
		【目標】 医療依存度の高い高齢者、および家族の状況に即した高度な退院支援について修得する。また、高齢者と家族の退院を効果的にするための調整、相談、教育活動について修得する。 【学習方法】 上記の目標を達成するための実習計画を立案し、CNS と担当教員からスーパービジョンを受ける。また、医療依存度の高い高齢者の退院に関する支援について、CNS とともに行動し、退院に必要な調整、相談、教育活動に参加する。2事例のケースを受け持ち、ケースレポートを作成し、ケースカンファレンスを実施する。うち1事例は、CNS の指導のもとで医療依存度の高い高齢者の退院支援を展開する。終了後は課題レポートを作成する。 【学習内容】 <ol style="list-style-type: none"> 医療依存度の高い高齢者を2事例受け持ち、退院に向けて高齢者と家族に対する高度な看護実践に参加し、うち1事例は CNS の指導のもとで展開する。 医療依存度の高い高齢者の退院に向けた、看護スタッフおよび他部門・他施設・地域・多職種の調整、相談、教育活動に CNS の指導のもと、参加する。 病院の実施している研究的取組や事例検討、カンファレンスに参加し、必要時に文献や最新の知見についての情報を提供する。 					指導者 後藤 慶 (CNS)	
教科書 参考図書	特に指定しない							
履修上の注意								
学生への メッセージ	実習施設と協働し、適宜ケースカンファレンスを行い、評価を受ける。終了時には実習事例、課題について実習レポートをまとめ、発表する。							
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp							

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
老年看護学課題研究 (専門科目)	教授・齋藤 美華	博士前期課程 2年	通年	2	90	老年看護 CNS 必修	否
授業概要	これまでの学修および看護実践で生じた疑問や関心から、老年看護学における研究課題を見出し、その解決の方略を研究的視点で検討し、論文を作成する。						
一般目標	老年看護における研究課題を見出し、その解決の方略を研究的視点で検討することができる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの関心に基づき、老年看護において探求・解決すべき課題を焦点化できる。 2. 課題設定を行い、研究目的に適した研究方法を探求できる。 3. 研究計画を立案できる。 4. 収集したデータを分析し、論理的にまとめることができる。 5. 看護実践の改善・改革を具体的に提言できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	研究計画書作成や研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、指導教員と副指導教員が総合的に評価する。なお、山形県立保健医療大学大学院課題研究論文審査要綱に従って期日までに提出された課題論文は、課題研究論文審査委員による審査を受ける。						
授業形式	臨地実習および対面授業（遠隔授業となる場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
		文献検討 研究課題の探求 研究計画書作成 データ収集・分析 まとめ（論文作成） 発表	研究計画書の作成および期日までに提出 倫理審査委員会申請書の作成および倫理 審査 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集・分析 考察 課題研究論文の作成および提出 中間発表会・研究発表会における成果の発 表	文献検討 研究課題の探求 研究計画立案 データ分析 論文作成 プレゼンテーションの 準備 関連する学会への参加	齋藤		
教科書 参考図書	授業中に指定する。						
履修上の注意	山形県立保健医療大学大学院課題論文審査に関する申し合わせに従うこと。 課題研究論文執筆にあたっては、山形県立保健医療大学大学院学位論文執筆規定を遵守すること。						
学生への メッセージ	主体的に取り組むこと。また、積極的に指導教員の指導を受けること。						
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生	
母子看護学特論 (専門科目)	教授・遠藤 恵子 非常勤講師・中込さと子	博士前期課程 1年	前期	2	30	母性看護 CNS 必修	否	
授業概要	周産期の母子と家族や、生涯を通じた女性と家族の包括的な理解に向けた知識、および健康問題の診断の基盤となる知識である、人間発達学的知識、発達危機理論、愛着・親役割理論、生殖内分泌学的知識、女性医学の知識、遺伝学的知識、周産期医学的知識について教授する。							
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期の母子や生涯を通じた女性とその家族の健康を概念や理論から包括的に理解できる。 ・周産期の母子や生涯を通じた女性の健康問題の診断に必要な知識を習得できる。 ・母性看護学の視点で、周産期の母子や生涯を通じた女性をとりまく健康課題を探索できる。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・母性の概念や母性に関する理論を説明できる。 ・人間の発達過程と発達危機を説明できる。 ・親役割とその獲得過程を説明できる。 ・家族の機能と家族の発達過程を説明できる。 ・母子の健康や生涯にわたる女性の健康における生殖内分泌的作用について説明できる。 ・思春期、成熟期、更年期、老年期の女性の健康問題の特性を説明できる。 ・母子の健康や生涯にわたる女性の健康に遺伝が及ぼす影響と看護の役割を説明できる。 ・最近の周産期医療と社会背景との関連を説明できる。 ・母性看護学の視点で、周産期の母子や生涯を通じた女性をとりまく健康課題を考察できる。 							
成績評価方針 評価方法 および基準	1～7回目 理論や概念の理解度を、授業での討議内容および課題レポート①で評価する 50% 8～15回目 健康問題と社会との関連、母性看護の視点からみた健康問題の意味について、課題レポート②で評価する。50%							
授業形態	対面授業（遠隔授業になることがあります）							
授業計画								
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習など	担当			
1	毎週 月曜日 7限目	母性の理解	母性の概念、母性に関する理論、愛着	テーマに関する 主要な理論 や概念を説明 する論文の精 読	遠藤			
2～3		発達の理解	発達課題、発達危機		遠藤			
4～5		親役割の理解	親役割や親役割獲得過程、親役割への影響要因		遠藤			
6～7		家族の理解	家族の概念、家族機能・家族発達過程		課題レポート ①	遠藤		
8～9		女性の性と生殖に関する 内分泌・女性医学	女性の生殖に関する内分泌の最新知見、 女性医学の理解	スポット (前田)				
10		思春期女性の健康問題	月経異常、性感染症、摂食障害、自殺	テーマとする 健康問題が生 じている社会 背景を考察す る	遠藤			
11		成熟期女性の健康問題	不妊、PMS		遠藤			
12		更年期・老年期女性の健康 問題	更年期障害、子宮がん、乳がん		遠藤			
13～14		母子や女性の健康に関する 遺伝学知識と遺伝看護	遺伝疾患による母子や女性への健康への 影響が及ぼす影響、遺伝相談の基本	中込				
15		周産期医療と社会の動向	最近の周産期医療と社会的背景との関連	課題レポート ②	遠藤			
教科書 参考図書		参考書 服部祥子：生涯人間発達論 医学書院 ルヴァ・ルービン；新道幸恵・後藤桂子訳：母性論 医学書院 1997 森山美知子編：ファミリーナーシングプラクティス 医学書院 鈴木和子他：家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会 ほか						
履修上の注意								
学生への メッセージ								
e-mail・研究室 (連絡先)		遠藤(恵)：研究室20 kendo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生				
周産期看護学特論	准 教 授・菊地 圭子	博士前期課程 1年	前期	2	30	母性看護 CNS 必修	可				
授業概要	周産期の母子の健康問題を解決する援助の基盤となる、周産期医療ケアの最新知識・技術、ガイドラインや、周産期ケアのエビデンスを獲得する方法、周産期ケアシステムと組織化に関する理論や母子保健行政について教授する。										
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期のハイリスク母子と家族が抱える健康問題に対するケアに必要な概念や理論を理解できる。 ・ 周産期のハイリスク母子と家族が抱える健康問題解決に向けたケアについて、知識を習得できる。 ・ 周産期の母子の健康問題を解決するケアシステムと協働連携を理解できる。 ・ 周産期のハイリスク母子の健康問題の解決に向けた質の高い看護援助を探究できる。 										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期ケアに関連するエビデンスを獲得し活用する方法を説明できる。 ・ エビデンスに基づいた周産期ケアを説明できる。 ・ 多胎児家庭の健康問題とケアを説明できる。 ・ 周産期の死を経験した女性と家族の健康問題とケアを説明できる。 ・ 胎児に異常があると診断された妊婦と家族の健康問題とケアを説明できる。 ・ 周産期に頻出する精神疾患とそのケアを説明できる。 ・ 母子保健行政の実際と課題を説明できる。 ・ 質の高い看護サービス提供にむけた、周産期ケアシステムや組織の構築と評価・改善のための方策を説明できる。 ・ 周産期のハイリスク母子の健康問題の解決に向けた質の高い看護援助を考察できる。 										
成績評価方針 評価方法 および基準	課題の達成度 50% 討議への参加度 25% レポート 25%										
授業形式	原則として対面授業。ただし、遠隔授業になる場合もあります。										
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当						
1	毎 週 木曜日 6 限目	エビデンスに基づく看護 とガイドライン	周産期ケアに関するエビデンスの獲得 方法	テーマに関連した情報 を事前に収集し、理解す るための自己の課題を 明確にして授業に臨む こと。			菊地				
2			多胎児家庭の健康問題と ケア					ガイドラインに基づく推奨されるケア の実際			
3								妊娠・分娩・育児期における多胎児家庭 の健康問題と支援			
4											
5		周産期の死のケア						周産期の死を経験した女性と家族の看護 援助とその動向			
6											
7		遺伝看護に関する看護実 践	出生前診断に関連する看護 出生前診断の是非をめぐる社会の動き 胎児異常を診断された妊婦と家族の看護								
8											
9		周産期の精神疾患と治 療・看護	周産期に頻出する精神疾患と看護								
10											
11		周産期医療と看護におけ る課題 周産期看護をテーマとし た研究の動向	周産期医療システム、院内助産システム の実際 周産期看護に関する研究の動向								スポ ット
12											
13											
14											
15											
教科書 参考図書	参考書 ・ エビデンスに基づく助産ガイドライン ー妊娠期・分娩期・産褥期 2020, 日本助産学会 ・ 新版 助産師業務要覧 第3版基礎編, 日本看護協会出版会, 2020 ・ 新版 助産師業務要覧 第3版実践編, 日本看護協会出版会, 2020 ・ 新版 助産師業務要覧 第3版アドバンス編, 日本看護協会出版会, 2020 ・ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会										
履修上の注意											
学生への メッセージ	討議に参加できるよう、テーマに関連した情報収集を事前に行い、授業に臨むこと。										
e-mail・研究室 (連絡先)	菊地圭子：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp										

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
女性生涯看護学特論 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	博士前期課程 1年	後期	2	30	母性看護 CNS 必修	可
授業概要	生涯を通じた女性の健康問題を解決する援助の基盤となる、女性医療ケアにおける最新知識・技術、ガイドラインと関連する最新エビデンスを獲得する方法、女性医療ケアシステムとその組織化に関する理論、生涯を通じた女性の健康を保持増進する保健施策や男女共同参画社会政策について教授する。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を通じた女性の健康問題に対するケアに必要な概念や理論を理解できる。 生涯を通じた女性の健康問題の解決のための、最新のエビデンスやケアに関する知識を習得できる。 生涯を通じた女性の健康を保持増進するケアシステムと協働連携を理解できる。 生涯を通じた女性の健康問題の解決に向けた質の高い看護援助を探求できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を通じた女性の健康問題をリプロダクティブヘルスの視点で説明できる。 生涯を通じた女性の健康の問題をセクシャリティの視点で説明できる。 生活過程から生じる女性の各ライフステージの健康問題と看護援助の特性を説明できる。 エビデンスに基づいた、女性の健康問題に対する医療ケアを説明できる。 性感染症の最新の治療を説明できる。 不妊治療により女性と家族に生じる健康問題とケアを説明できる。 乳がんや子宮がんにより女性や家族に生じる健康問題とケアを説明できる。 ドメスティックバイオレンスにより女性や家族に生じる健康問題とケアを説明できる。 女性医療ケアシステムにおける課題と看護の役割を説明できる。 生涯を通じた女性の健康を保持増進する施策の実際と課題を説明できる。 男女共同参画社会に向けた施策の実際と課題を説明できる。 生涯を通じた女性の健康問題の解決に向けた質の高い看護援助を考察できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業での討議の内容 20%、課題レポート①②各 40%により目標の到達度を評価する。						
授業形態	対面授業（遠隔授業になることがあります）						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習など	担当		
1		リプロダクティブヘルスと女性の健康問題	性と生殖に関する問題が、身体的・心理的・社会的影響の特徴	概念を説明する 主要論文の精読 課題レポート①	遠藤		
2		セクシャリティ	セクシャリティの概念、セクシャリティの発達		遠藤		
3~4		各ライフステージにおける女性への看護援助の特徴	思春期、成熟期、更年期、老年期の女性の発達課題と看護援助		遠藤		
5~6		女性に対する根拠あるケア	避妊法、更年期障害、尿失禁、月経異常	診療ガイドラインの精読	遠藤		
7		性感染症の病態生理と治療	女性の生涯を通じてみられる性感染症とその治療		遠藤		
8~9		不妊治療による健康問題とケア	不妊治療により女性とパートナーに生じる健康問題と看護援助		遠藤		
10~11		乳がん・子宮がんによる健康問題とケア	乳がんや子宮がんの治療により女性と家族に生じる健康問題と看護援助		スポット		
12		ドメスティックバイオレンスによる健康問題とケア	ドメスティックバイオレンスによる女性や子供に生じる健康問題と看護援助	課題レポート② 現在の施策と、今後の課題を考察	遠藤		
13		女性医療ケアシステムと看護の役割	女性を対象にした包括的な医療ケアシステムの実際と看護の役割		遠藤		
14		生涯を通じた女性の健康の保健施策と課題	生涯を通じた女性の健康の保健施策、関連する法		遠藤		
15		男女共同参画社会施策	男女共同参画の変遷、男女共同参画社会の施策と課題		遠藤		
教科書	<p>参考書</p> <p>日本産婦人科学会編集：産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2014 日本産科婦人科学会 吉沢豊子子編：女性生涯看護学 真興公交易医書出版部 2004 荒木重雄他編：不妊治療ガイダンス 第3版 医学書院 2003 高野陽他編：母子保健マニュアル改訂7版 南山堂 2010 ほか</p>						
履修上の注意							
学生へのメッセージ							
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	対 象 者	開 講 時 期	単 位 数	時 間 数	必 修 ・ 選 択 の 別	科 目 等 履 修 生
母子看護学特論演習 (専門科目)	教授・遠藤 恵子	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	母性看護学特論で学習した概念および理論を基盤として、母性看護領域の文献のクリティークを通して、研究課題の明確化および研究目的に適した研究方法を立案するプロセスを教授する。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文献クリティークをとおして、研究方法への理解を深める。 ・先行研究の検討や、社会情勢、看護実践から、看護上意義のある研究課題を明確にできる。 ・研究課題を達成するための、適切な研究方法を立案できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の研究テーマに関連する複数の文献を精読し、論理性の強みと弱みを理解できる。 ・関連テーマの複数の研究結果から、研究課題を明確にできる。 ・各種研究デザイン、研究方法を比較し、研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法を検討できる。 ・選択した研究方法について、信頼性・妥当性を高め、倫理的に配慮する具体的な方法を検討できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	研究計画のプレゼンテーションおよび計画書の内容について、到達目標への達成度						
授業形態	対面授業（遠隔授業になることがあります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 6	後日連絡	研究課題の明確化と 研究方法の理解	先行研究を精読し、自分の研究課題を明確にする。 学生によるプレゼンテーションと、それについてゼミ形式で討議する。	プレゼンテーション 資料作成	遠藤		
7 ～ 15		研究計画の立案	各種研究デザイン、研究方法を比較し、研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法を選択する。 学生によるプレゼンテーションと、それについてゼミ形式で討議する。	研究計画およびプレゼンテーション資料 作成	遠藤		
16 ～ 21		研究方法の吟味 ①測定用具の検討	自分の研究課題および研究デザインに応じたデータ収集方法および測定用具を選択して、自分の研究への適用の可否を検討する。 検討プロセスと検討結果についてゼミ形式で討議する。	研究計画について、自分の研究への適用の可否を検討 検討結果に関するプレゼンテーション資料 作成	遠藤		
22 ～ 30		②データ分析の基礎 と実際	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。 分析手順等はシミュレーションを行い、課題の検討などはゼミ形式で討議する。		遠藤		
教 科 書 参 考 図 書	教科書 なし 参考書 随時提示する						
履 修 上 の 注 意							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ							
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
周産期看護学特論演習 (専門科目)	准教授・菊地 圭子 教授・遠藤 恵子	博士前期課程 1年	後期	4	60	選択	否
授業概要	周産期看護学特論で学習した概念および理論の研究への適用を理解するとともに、周産期看護学領域の先行研究のクリティークを通して、研究課題の明確化および研究目的に適した研究方法を立案するプロセスを教授する。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期看護学領域で用いる概念および理論の研究への適用について理解する。 2. 先行研究のクリティークを通して、看護上意義のある研究課題を見出すプロセスを理解する。 3. 自分の研究課題を達成するための、適切な研究計画立案のプロセスを理解する。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期看護学領域で用いられる概念および理論の研究への適用の仕方を説明できる。 2. 文献のクリティークを通して、研究課題の意義、研究目的に適した研究方法が選択されているか否かについて検討することができる。 3. 文献のクリティークを通して、研究成果の周産期看護学領域の実践への応用について討議することができる。 4. 自分の研究課題に関連する領域の先行研究のクリティークを通して、研究課題を明確にすることができる。 5. 自分の研究課題を達成するための、適切な研究デザイン、研究方法を検討できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	プレゼンテーションの内容 40% 講義と討議への参加姿勢 20% 研究計画のプレゼンテーションおよび計画書の内容 40%						
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 6	後日連絡	先行研究(和文)のクリティーク 論文クリティークの実際	学生によるプレゼンテーションおよび 討議	学生のプレゼンテーションと討議で演習を進めます。関心のある先行研究について、複数の国内外の文献をクリティークした上で、プレゼンテーションに臨んでください。			
7 8		研究課題の明確化	学生によるプレゼンテーションおよび 討議				
9 ～ 16		先行研究(英文)のクリティーク	学生によるプレゼンテーションおよび 討議				
17 ～ 27		研究計画の立案 自分の研究課題に適した 研究デザインや研究方法 の検討	学生のプレゼンテーションと討議により、 研究課題に適応できる研究デザイン、 研究方法、分析方法を用いた先行研究 について吟味する。				
28 ～ 30		研究計画のプレゼンテーション					
参 考 図 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. バーンズ&グローブ, 黒田裕子他翻訳:看護研究入門—実施・評価・活用, エルゼビア・ジャパン株式会社, 2007 2. D.F. ポーリット&C.T. ベック著, 近藤潤子監訳:看護研究 原理と方法第2版, 医学書院, 2010 3. 操華子他訳:研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法—, 日本看護協会出版会, 2007 ◆講義において討議に用いる文献は主として下記の雑誌の論文を用いること。 Journal of Obstetric, Gynecologic, & Neonatal Nursing, Journal of Midwifery & Women's Health, Nursing Research, Research in Nursing Health, Journal of Women's Health, 日本看護科学会誌, 日本看護研究学会誌, 日本助産学会誌, 日本母性看護学会誌, 小児保健研究, 家族看護学研究						
履修上の注意	プレゼンテーションに用いる主たる論文は、1週間前までに教員および学生に配布してください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	修士論文に直結する演習です。 自分の研究課題、研究デザインや研究方法に関連する学会やセミナーには積極的に参加し、学習した内容は報告すること。						
e-mail・研究室 (連絡先)	菊地:研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤:研究室20 kendo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
周産期看護展開論Ⅰ (専門科目)	教授・遠藤 恵子 非常勤講師・小嶋 由美	博士前期課程 1年	後期	2	30	母性看護 CNS 必修	否
授業概要	周産期にある母子と家族が、正常経過からの逸脱を予防し、家族機能を発達させるような看護援助・プライマリーケアについて教授する。また、周産期看護実習Ⅰで自分が実践した事例を振り返り、実践、相談、調整、倫理的調整の視点から質の高いケア提供のあり方を見出し、高度実践看護の基盤となる能力を養う。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期の母子の、起こりうる健康問題を予測し、健康の保持増進と異常への移行を防ぐための看護援助を理解できる。 ・周産期の女性の家族が、新しい家族を形成し、家族機能を発達させる看護援助を理解できる。 ・周産期看護における母性看護専門看護師としての実践、相談、調整、倫理的調整に関する具体的な役割を考察できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦のマイナートラブルをアセスメントする方法と、今後のトラブルを最小にし、異常への移行を防ぐための看護援助を検討できる。 ・妊婦と家族が主体的に分娩に取り組み、分娩を肯定的に受け止め、さらに家族機能を高めるためのパースプランやパースレビューの方法を検討できる。 ・周産期の女性と家族が、新しい家族を形成し、家族機能を発達させるための家族計画・受胎調節に関する看護援助を検討できる。 ・リスクのある母子に対して、母子の健康を促進し、母子関係を良好に築くための母乳育児支援や授乳支援を検討できる。 ・自分の実践事例を振り返り、周産期の母子の健康保持増進と異常への移行を防ぐために必要な実践、相談・連携・倫理的調整の視点から具体的なケアの在り方を見出し説明できる。 ・周産期看護における母性看護 CNS の役割と看護を考察できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	毎回の授業での討議内容から、目標達成度を評価する 50% ケースレポート 30% 課題レポート① 20%						
授業形態	対面授業（遠隔授業になることがあります）						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1～2	毎週 月曜日 6限目	正常から逸脱を予防する妊娠期の看護援助	マイナートラブルのアセスメント、今後の予測、緩和と予防にむけた保健行動	看護援助について根拠を示す論文の精読	遠藤		
3～4		分娩を肯定的に受け止めるための看護援助	パースプラン・分娩準備教育・パースレビューの意義、効果的な時期や方法の検討		遠藤		
5～6		新しい家族の形成・家族機能発達を促進する看護援助	周産期の家族計画・受胎調節の効果的な時期や方法の検討		遠藤		
7～8		リスクのある母子に対する母乳・授乳に関する看護支援	母子分離、口蓋裂や口唇裂などの先天性疾患をもつ児、感染症や精神疾患などの合併症をもつ褥婦に対する、母乳・授乳の支援		遠藤		
9～12		周産期の母子の健康保持増進と異常への移行を防ぐ、母性看護専門看護師の役割	周産期看護実習Ⅰで受け持った事例を振り返り、専門看護師の役割である実践、相談、連携、倫理的調整について評価する。また、実践、相談、連携、倫理的調整について、自分の課題と課題に取り組む方策を考察する。	周産期看護実習Ⅰで受け持った事例のケースレポート作成	遠藤 小嶋		
13～15		周産期看護における母性看護専門看護師の役割	獨協医科大学病院の母性看護専門看護師の実践活動の見学をとおして、専門看護師の役割を学ぶ	課題レポート①	小嶋		
教科書 参考図 書	進純郎、高木愛子：助産外来の健診技術 医学書院 日本ラクテーションコンサルタント：母乳育児支援スタンダード第2版 その他必要なものを自分で収集する。						
履修上の注意							
学生への メッセージ							
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
周産期看護展開論Ⅱ	教授・遠藤 恵子 准教授・菊地 圭子 教授・安保 寛明	博士前期課程 2年	通年	2	30	母性看護 CNS 必修	否
授業概要	周産期の母子と家族の健康問題を解決するために必要な、周産期の母子援助とそのケアシステムを充実発展させる連携や調整、業務管理について教授する。また、周産期ケアシステムや人材育成の課題やその課題解決方法を考察し、看護職の果たす役割を明確化する。これによりシステムの中でリーダーシップを発揮し、変革を推進できる能力を養う。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療システムの現状と課題を理解できる。 ・周産期の母子の複雑で困難な健康問題を解決するための、周産期医療ケアシステムにおける業務管理、連携・調整の方法を理解できる。 ・国外の周産期医療や人材育成システムを参考に、周産期医療システムを充実発展する方策と其中で看護の果たす役割を考察できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の母子保健の動向と周産期医療システムの実態と課題を説明できる。 ・周産期看護における業務管理や連携・調整の実際と課題を説明できる。 ・周産期ケアにおける医療安全対策の現状と課題を説明できる。 ・周産期ケアを担う人材や看護教育の現状と課題を説明できる。 ・周産期にある母子とその家族に対する災害時の看護の課題と今後の展望を説明できる。 ・周産期の保健医療福祉の連携システムの構築と課題を説明できる。 ・看護チーム内、他職種と効果的に協働連携し、周産期看護を充実発展させるための、リエゾン・コンサルテーションの方法を説明できる。 ・国外の周産期医療システム等を参考に、国内の周産期医療システムや人材育成の課題を解決する方策を考察し、わかりやすく発表できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	毎回の講義での討議内容で、到達目標の達成度を評価 50% 課題レポート① 根拠をふまえた課題の明確化 30% 13～15 回目 プレゼンテーションの内容とプレゼンテーション技術 20%						
授業形態	対面授業（遠隔授業になることがあります）						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習など	担当		
1～2	後日連絡	母子保健の動向と周産期医療システム	国内外の母子保健統計の推移、日本・海外の周産期医療システム		遠藤		
3～4		周産期看護の業務管理と連携・調整	周産期医療センターの役割と業務管理、院内助産、他部門との連携調整		菊地		
5		周産期の医療事故と医療安全対策	周産期の医療事故と医療訴訟、周産期医療に必要な医療安全対策		菊地		
6		周産期医療を担う人材育成	周産期医療人材の基礎教育とキャリアアップのための教育		菊地		
7～8		周産期にある母子とその家族の災害看護	発災時の母子への支援、長期的な母子への支援とネットワーク		菊地		
9～10		周産期の医療保健福祉の連携	周産期の保健福祉サービスの法的根拠と各種制度、周産期医療保健福祉の連携と課題	周産期医療福祉保健の課題について課題レポート①	遠藤		
11～12		周産期のリエゾン・コンサルテーション	周産期看護を充実発展させるためのリエゾン・コンサルテーション		安保 遠藤		
13～15		周産期医療システムと人材育成の変革	海外の周産期医療システムや人材育成制度を調べ、日本の周産期医療システムや人材育成の課題について発表	プレゼンテーション資料作成	遠藤		
教科書 参考図 書	専門誌の論文等からその都度配布する。またその他必要なものを自分で収集する。						
履修上の注意							
学生への メッセージ							
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤(恵)：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp 菊地：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 安保：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
周産期看護展開論Ⅲ	准教授・菊地圭子	博士前期課程 1年 2年	1年後期 2年前期	2	60	母性看護 CNS 必修	否
授業概要	周産期医療における高度看護実践に必要な知識として、妊産婦および児の正常からの逸脱時におけるアセスメント、根拠に基づいた看護援助、エビデンスの臨床への適用、産科救急時の処置について教授する。また、周産期医療における多職種連携のあり方や、連携調整の方法について、考察する基盤を形成する。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊産婦および児の正常からの逸脱時におけるアセスメント方法を習得できる。 ・ 産科救急時の処置に関する知識とそれに関連する看護方法を習得できる。 ・ 正常からの逸脱時における、エビデンスに基づいた看護方法とエビデンスの適用方法を理解できる。 ・ 周産期医療における多職種連携のあり方や、調整方法を考察できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重篤な合併症や心理社会的に複雑な問題をもつ妊産婦の看護を展開できる。 ・ 周産期救急に効果的に対処することを目的としたシミュレーション研修を通して、母体救命や新生児蘇生の方法を学ぶとともに、研修会の効果的な展開方法について考察できる。 ・ 正常からの逸脱時における、エビデンスの適用を踏まえた根拠ある看護方法を説明できる。 ・ 妊娠・分娩・育児へのがん治療の影響をふまえ、がんを合併した周産期の女性の看護援助を説明できる。 ・ 遺伝看護の実際と長期的な支援方法について説明できる。 ・ ハイリスク妊婦の支援について多職種によるカンファレンスを企画できる。 ・ 正常からの逸脱時および産科救急時の多職種連携のあり方や調整方法を考察できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	演習や討議への参加度 (20%)、課題の達成度 (40%)、レポート (40%) により評価する。						
授業形式	原則として対面授業。ただし、遠隔授業になる場合もあります。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1 ～ 4	後日連絡	ハイリスク妊産婦のアセスメント	重篤な合併症や複雑な問題をもつ妊産婦のアセスメント 看護過程の展開	テーマに関連した情報を事前に収集し、理解するための自己の課題を明確にして授業に臨むこと	菊地		
5 ～ 7		周産期救急における診断と処置	母体救命が必要な状況や分娩時出血を想定した、周産期医療施設で実施する研修会に参加し、救急処置や連携・協働の実際を演習する		スポット (阪西)		
8 ～ 10		ハイリスク児の治療の実際	治療を必要とする児の管理と処置、NICU での臨床講義		スポット (饗場)		
11 ～ 14		ハイリスク児と家族の支援 新生児の蘇生・救急処置	治療を必要とする児のケア、ハイリスク児の家族の支援、生命の危機にある新生児の蘇生や救急処置についてシミュレーターを用いた演習		スポット (植松) 菊地		
15 ～ 19		ハイリスク妊産婦と家族への支援とエビデンスの適用	周産期の合併症や異常を有するハイリスク妊婦や褥婦に対する根拠あるケア、エビデンスを共有する方法		菊地		
20 ～ 22		周産期の女性のがん患者の看護援助	がん治療と妊孕性、乳がんや子宮がんをもつ妊婦や褥婦に対する看護援助の実際、乳がん治療後の褥婦の授乳支援		スポット		
23 ・ 24		周産期における遺伝看護	遺伝看護の実際、遺伝疾患をもつカップルの妊娠の意思決定への支援		スポット (佐藤)		
25 ～ 27		周産期の多職種連携の実際	周産期母子医療センターにおける周産期カンファレンスの実際、ハイリスク母子の支援のあり方		菊地		
28 ～ 30		周産期医療システムと連携・調整	周産期医療システムと施設間連携、周産期医療における施設内連携、周産期における多職種連携		菊地		
教科書 参考図書	以下の書籍等を参考に必要なものを自分で収集する。 〈参考書〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ エビデンスに基づく助産ガイドライン ー妊娠期・分娩期・産褥期 2020, 日本助産学会 ・ 日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020, 日本産科婦人科学会 ・ 厚生労働科学研究 妊娠出産ガイドライン研究班編：科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 2013 年版, 金原出版, 2013 ・ 細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト第 4 版, メジカルビュー社, 2021 						

履修上の注意	
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	
e-mail・研究室 (連 絡 先)	菊地圭子：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
周産期看護展開論Ⅳ (専門科目)	教授・遠藤 恵子	博士前期課程 2年	通年	2	60	母性看護 CNS 必修	否
授業概要	倫理的問題をかかえる周産期の母子と家族に対する対応、心理社会的問題をかかえる周産期の母子とその家族への看護援助、関係する組織内外の職種や機関との協働連携の方法を教授する。						
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的問題をもつ母子や家族に対して倫理的意思決定を支え、チームにおける倫理的調整のあり方を理解できる。 ・周産期の心理社会的問題とその問題が引き起こす影響と看護援助を理解できる。 ・心理社会的問題をもつ母子や家族の長期的な生活をみすえた、連携協働のための相談、調整の方策を採求できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期の倫理的課題を説明できる。 ・周産期の倫理的課題を調整する方法を説明できる。 ・周産期の心理社会的問題をもつ妊婦・褥婦に対する看護援助方法を説明できる。 ・心理社会的問題をもつ母子や家族への長期的支援のための、相談、調整の方策を理解できる。 ・周産期医療の場において、虐待を予測・発見する方法と予防する看護援助を理解できる。 ・周産期の問題を抱える対象者に関連する保健医療福祉のそれぞれの役割と、それぞれの機関が母性看護に期待する内容を把握し、周産期医療現場における母性看護専門看護師の役割を考察できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業での討議の内容 20%、課題レポート①②各 20%、③40%により目標の到達度を評価する。						
授業形式	対面授業（遠隔授業になることがあります）						
授業計画							
回	日付	授業項目	学習内容	授業外学習など	担当		
1		周産期の倫理的問題と母子や 家族への影響	出生前診断、高度生殖医療、人工妊娠中 絶		遠藤		
2 ～ 3		周産期における倫理的意思決 定	倫理的意思決定モデル、事例を用いた意 思決定プロセスの演習	課題レポート①	遠藤		
4		周産期の母子と家族の心理社 会的問題	周産期の心理社会的問題の特徴と、母子 や家族に及ぼす影響		遠藤		
5 ～ 8		統合失調症の女性の妊娠育児	妊娠分娩育児の支援、服薬コントロ ール、関係機関との連携		遠藤		
9 ～ 12		身体的な障がいをもつ女性の 妊娠育児への支援・関係機関と の連携	身体障害、聴覚障害、視覚障害をもつ女 性の妊娠育児の支援、関係機関との連携		遠藤		
13 ～ 16	後日連絡	障がいをもつ児を在宅で育児 する家族への支援・関係機関と の連携	経管栄養や気管切開している乳児の家 族への支援、医療機関から在宅への移行 時の支援、医療・福祉との連携		遠藤		
17 ～ 20		周産期における乳幼児虐待の 予測・発見	乳幼児虐待重大事例の検証報告からみ た乳幼児虐待の背景と要因、虐待を周産 期に予測・発見するアセスメント	課題レポート②	遠藤		
21 ～ 26		心理社会的問題をかかえる母 子と家族を支援する機関との 連携	保健所・市町村・児童相談所・乳児院・ 福祉事務所・里親協議会等を訪問し、各 機関の役割と課題についてインタビュー 。連携の在り方と母性看護専門看護師 の役割を考察する。	インタビューの分析 課題レポート③	遠藤		
27 ～ 30		乳幼児虐待のハイリスク母子 への周産期における援助	乳幼児虐待のハイリスク母子へ継続的 な援助、早期に予測発見予防できるシス テムの構築、関係機関との連携		遠藤		
教科書 参考図書	専門誌の論文等からその都度配布する。 その他必要なものを自分で収集する。						
履修上の注意							
学生への メッセージ							
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生	
周産期看護実習Ⅰ (専門科目)	教 授・遠藤恵子 非常勤講師・小嶋由美	博士前期課程 1年	後期	2	90	母性看護 CNS 必修	否	
授業概要	講義や演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、健康問題を持つ妊婦・褥婦や、今後健康問題が生じる可能性が高い妊婦・褥婦に対して、包括的にアセスメントする能力、質の高い看護を実践する能力を獲得するための基礎的能力と、ケアの質の向上を自律的に目指すことのできる能力を養う。							
到達目標	① 妊婦や褥婦に対して、現在の健康問題または今後起こりうる健康問題の予測を診断するのに必要な包括的なアセスメントができる。 ② 妊婦・褥婦と家族がもつ現在の健康問題を解決するため、根拠に基づいた看護計画を立案し、必要な看護援助が実施できる。 ③ 妊婦・褥婦と家族に今後起こる健康問題を予測し、異常への移行を防ぐため根拠に基づいた看護計画を立案し、必要な看護援助が実施できる。 ④ 母性看護 CNS の役割を考察できる。 ⑤ 自己の活動を客観的に評価し、今後の課題を明確化し、課題解決にむけ行動できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	日々の記録、レポートから総合して以下のように評価を行う。 ・健康問題の包括的なアセスメント 40点 ・健康問題解決に必要な根拠に基づく看護援助の実践 40点 ・母性看護 CNS の役割の考察 10点 ・自己の活動の客観的な評価 10点							
授業形式	対面授業・実習							
授業計画								
回	日付	学習内容・学習方法					担当	
		実習期間 1月 月曜日から木曜日までの週4日を4週間以上 実習施設 済生会山形済生病院 産科外来・3A病棟 実習内容 産科外来または産科病棟において、身体的心理的社会的な問題を持つ妊婦や褥婦や、今後問題が生じる可能性が高い妊婦や褥婦を受け持つ。受け持ち事例とその家族について包括的にアセスメントし、健康問題の解決や異常への移行を防ぐため、医師の診断や治療方針を理解し、ガイドライン等を活用し根拠に基づいた看護援助計画を立案し、看護援助を実施し、その一連の過程を評価する。 木曜日午後は学内で科目担当教員、あるいは学外の担当教員から指導を受ける。 詳細は実習要項を参照					担当教員 遠藤 小嶋 指導者 (スポット 講師)	
教科書 参考図書								
履修上の注意								
学生への メッセージ								
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生	
周産期看護実習Ⅱ (専門科目)	教 授・遠藤 恵子 非常勤講師・小嶋 由美	博士前期課程 2年	前期	3	135	母性看護 CNS 必修	否	
授業概要	講義や演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦・褥婦と家族に対して、包括的にアセスメントできる能力、質の高い看護を実践する能力、看護援助に必要な相談、調整、倫理的調整の能力を獲得するための基礎的能力と、ケアの質の向上を自律的に目指すことのできる能力を養う。							
一般目標	生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦・褥婦と家族に対して、包括的にアセスメントできる能力、質の高い看護を実践する能力、看護援助に必要な相談、調整、倫理的調整の能力を獲得するための基礎的能力を養う。							
到達目標	①生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦・褥婦と家族に対して、 ・包括的にアセスメントの実施と質の高い看護を実践することができる。 ・ケア提供者から相談を受け、質の高い看護に必要な助言を行うことができる。 ・連携協働する機関や時期・内容を検討し、役割を調整することができる。 ・倫理的課題を明確化し、その課題の解決に必要な倫理的調整方法を検討できる。 ②母性看護 CNS の役割を考察できる。 ③自己の活動を客観的に評価し、今後の課題を明確化し、課題解決にむけ行動できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	実習態度、日々の記録、レポートから総合して以下のように評価する ・包括的アセスメント、根拠に基づく生命危機の優先度を考慮した看護実践 20点 ・時期、相手、内容について役割調整の検討と実施 20点 ・適切な内容の相談の実施 20点 ・倫理的課題の明確化と調整方法の検討 20点 ・母性看護 CNS の役割の考察 10点 ・自己の活動の客観的評価 10点							
授業形式	対面授業・実習							
授業計画								
回	日付	学習内容・学習方法					担当	
		実習期間 2年次 5月から7月 月曜日から木曜日までの週4日を5週間以上 実習施設 山形県立中央病院 4階東病棟(産婦人科) MFICU NICU GCU 済生会山形済生病院 3B病棟 3A病棟 実習内容 母体搬送されたハイリスク妊産婦、NICUに入院している児と母親、心理社会的問題を抱える妊婦・褥婦、GDMやPIHなどの合併症や切迫早産・双胎妊娠の妊婦・褥婦といった生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦・褥婦を受け持ち、対象の持つ健康問題をアセスメントし、解決に必要な看護実践、緊急事態への対応、相談、調整、倫理的調整を自律して実践する。 木曜日午後は学内で科目担当教員あるいは学外の担当教員から指導を受ける。 詳細は実習要項を参照					担当教員 遠藤 小嶋 指導者 (スポット 講師)	
教科書 参考図書								
履修上の 注意								
学生への メッセージ								
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤(恵): 研究室 20 kendo@yachts.ac.jp							

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
周産期看護実習Ⅲ (専門科目)	教授・遠藤恵子 非常勤講師・小嶋由美	博士前期課程 2年	前期	5	225	母性看護 CNS 必修	否
授業概要	講義や演習、周産期看護実習Ⅰ・Ⅱで学んだ理論・知識・技術を応用・統合し、生命の危機状況にある母子や、複雑な健康問題をもつ周産期の対象に対するケアの質の向上に向け、看護調整、相談、倫理的調整、教育、研究の能力を養う。さらに、これらの実践、調整、相談、倫理的調整、教育、研究をとおして、リーダーシップを発揮する能力とともに周産期ケアの質向上のための変革を担う力を養う。						
一般目標	生命の危機状況にある母子や、複雑な健康問題をもつ周産期の対象に対して質の高い看護を実践する能力とともに、ケアの質の向上に向けた教育的機能を果たす能力、ケア提供者からの相談に対してコンサルテーションする能力、チーム内でのコーディネーターの役割を調整し他職種と協働できる力、倫理的問題を判断し問題を調整する能力、看護実践場面で生じる研究課題を見出し研究的アプローチで課題を解決する能力を養う。さらに、リーダーシップを発揮する能力とともに周産期ケアの質向上のための変革を担う力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①高度で緊急のケアを要する産婦に、医師等と協働しながら質の高い看護ケアを実践できる。 ②複雑な健康問題をもつ周産期の事例にかかわるケア提供者からの相談に対してコンサルテーションすることができる。 ③複雑な健康問題をもつ周産期の事例にかかわるケア提供者間のリーダーとして、役割を調整し、効果的に連携協働できる。 ④複雑な健康問題をもつ周産期の事例に生じる倫理的課題に対して、調整することができる。 ⑤看護スタッフに対して必要な周産期看護に関する効果的な教育計画を立案し実施できる。 ⑥実践から研究課題を見出し、先行研究や関連資料を活用しながら研究的アプローチで新たな知見を探索できる。 ⑦リーダーシップを発揮する能力と周産期ケアの質向上のための変革について母性看護 CNS の役割を考察できる。 ⑧自己の活動を客観的に評価し、母性看護 CNS の役割遂行に対する今後の課題を明確化できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	<p>日々の記録、レポートから以下の評価視点で評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ケアにおける医師等と協働、根拠に基づく質の高いケア 10点 ② 調整内容を明確化、調整のリーダーシップ 10点 ③ 倫理的課題の明確化、倫理的調整実施の適切性 10点 ④ 相談・助言の適切性 10点 ⑤ 教育のニーズの明確化、適切な方法と内容の教育 10点 ⑥ 研究課題の明確化、研究成果 10点 ⑦ 母性看護 CNS としてのリーダーシップ・変革への提言 20点 ⑧ 母性看護専門看護師として実践、相談、調整、倫理的調整、教育、研究の評価 20点 						
授業形態	対面授業・実習						

授業計画			
回	日付	学習内容・学習方法	担当
		<p>実習期間 2年次 前期、週4日を8週間以上 実習施設 山形県立中央病院 MFICU、4階東病棟、NICU、GCU 実習の内容 質の高い看護実践、リーダーシップを発揮する能力と周産期ケアの質向上のための 変革する能力を獲得する方策を見つけるため、実践、調整、倫理的調整、相談、 研究、教育活動について、自律して実習計画を立案し実施する。</p> <p>1) 実践 複雑な健康問題、特に医学的課題を強く有する周産期にある妊婦や褥婦や、今 後リスクが生じる可能性が高い妊婦や褥婦を受け持ち、包括的にアセスメントし、 ケア計画を立案実施し、ケアの評価を実施する。</p> <p>2) 調整 実習病棟内の患者について、必要な役割調整を明確化し、最も効果的な方法を 検討し、調整やカンファレンスを企画実施する。</p> <p>3) 倫理的調整 実習病棟内の患者について、事例の持つ倫理的課題を明らかにし、調整方法を 検討する。</p> <p>4) 相談 看護スタッフからの看護ケアに関する相談に対するコンサルテーションを実施 する。</p> <p>5) 教育 実習病棟の看護スタッフに対して必要な周産期看護に関する効果的な教育計画 を立案し実施する。</p> <p>6) 研究 実習において課題と感じたテーマについて、先行研究や関係資料等から検討し、 病棟に還元する研究活動を実施する。</p> <p>木曜日午後は学内で科目担当教員あるいは学外の担当教員から指導を受ける。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>	<p>担当教員 遠藤 小嶋</p> <p>指導者 菊地 スポット (峯田) スポット (門馬) スポット (植松)</p>
教科書 参考図書			
履修上の 注意			
学生への メッセージ			
e-mail・研究室 (連絡先)		遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp	

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
母性看護学課題研究 (専門科目)	教授・遠藤 恵子 准教授・菊地 圭子	博士前期課程 2年	通年	2	90	母性看護 CNS 必修	否
授業概要	これまでの学修並びに看護実践で生じた疑問から、母性看護学領域における課題を見出し、課題解決の方略を研究的視点で検討し、論文を作成する。						
一般目標	母性看護学領域における課題を見出し、課題解決の方略を研究的視点で検討することができる。						
到達目標	研究課題を焦点化できる。 課題追求方法を検討し、計画立案できる。 収集したデータを分析し論理的にまとめることができる。 看護実践の改善・改革を具体的に提言できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	研究計画書作成や研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、指導教員と副指導教員が総合的に評価する。なお、山形県立保健医療大学大学院課題研究論文審査要綱に従って期日までに提出された課題論文は、課題研究論文審査委員による審査を受ける。						
授業形態	対面授業（遠隔授業となることがあります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
		研究計画書の作成および期日までに提出 倫理審査委員会申請書の作成および倫理審査 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集 データ分析・考察 課題研究論文の作成および提出 中間発表会・研究発表会における成果の発表			研究課題の探求 研究計画立案 データ分析 論文作成		
教科書 参考文献	指導教員の指示に従ってください。						
履修上の注意	山形県立保健医療大学大学院課題論文審査に関する申し合わせに従うこと。 課題研究論文執筆にあたっては、山形県立保健医療大学大学院学位論文執筆規定を遵守すること。						
学生への メッセージ	学生は積極的に主指導教員および副指導教員の指導を受ける。						
e-mail・研究室 (連絡先)	遠藤恵子：研究室 20 kendo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位数	時間 数	必修・選択 の別	科目等 履修生
精神看護学特論 I (専門科目)	教授・安保 寛明 講師・高谷 新	博士前期課程 1年	前期	2	30	精神看護 CNS 必修	可
授業概要	精神看護において卓越した役割を担うための理論を教授する。セルフケア理論と対人関係理論を基盤として精神看護におけるアセスメントの概念モデルを整理するとともに、自己決定と協働意思決定に関する概念モデルと整理するために自己受容、行動変容の核となる概念に加えてコンコーダンス（調和）モデルによる共同意思決定について教授する。						
一般目標	1. 精神看護において卓越した役割を担うための理論と関連技法を学ぶ。 2. セルフケア理論と対人関係理論について理解する。 3. 自己受容と行動変容の核となる概念を整理することができる。 4. 職種間連携について理解する。 5. コンコーダンス（調和）モデルにおける共同意思決定について理解する。						
到達目標	1. 精神看護において卓越した役割を担うための理論と関連技法を学ぶ。 2. セルフケア理論と対人関係理論について理解する。 3. 自己受容と行動変容の核となる概念を述べることができ、実践例を述べられる。 4. 職種間連携について要諦を述べるができる。 5. コンコーダンス（調和）モデルにおける共同意思決定について述べられる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	評価方針：知識、技術、態度 (Knowledge, Skills, Attitude)の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・事例検討におけるレポートとプレゼンテーションを対象とする。 技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 プレゼンテーション 40% 事例検討におけるレポート 40% 受講態度 20%						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など	担当	
1	5. 4. 12(水) 3	精神看護に関する理論的基盤	教科書指定した書籍を基にしたディスカッション		3講で扱う論文の提示	安保	
2	5. 4. 19(水) 3	セルフケア理論 オレムのセルフケアモデル	セルフケア理論について（講義） 論文のクリティークについて			高谷	
3	5. 4. 26(水) 3	論文のクリティーク①	クリティーク演習、ディスカッション		4講以降の講義で紹介する理論について決定	高谷	
4	5. 5. 10(水) 3	行動変容・行動強化に関する理論	紹介する理論について各自からプレゼンテーション、事例検討			高谷	
5	5. 5. 24(水) 3	行動変容・行動強化に関する理論	4講で扱った理論について、再プレゼン・ディスカッション、事例検討			高谷	
6	5. 5. 31(水) 3	共同意思決定 Snowdenのコンコーダンスモデル	共同意思決定に関する講義			高谷	
7	5. 6. 7(水) 3	共同意思決定 Snowdenのコンコーダンスモデル	共同意思決定に関する事例検討			高谷	
8	5. 6. 14(水) 3	論文のクリティーク②	関心のあるテーマに関連した研究についてプレゼンテーション・ディスカッションおよびクリティーク			高谷	
9	5. 6. 28(水) 3	論文のクリティーク③	8講で扱った研究について、再プレゼン、クリティーク内容の整理			高谷	
10	5. 7. 5(水) 3	危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論	紹介する理論について各自からプレゼンテーション・ディスカッション			高谷	
11	5. 7. 19(水) 3	危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論	10講で扱った理論について再プレゼン・ディスカッションおよび事例検討			高谷	
12	5. 7. 26(水) 3	病気・障害・人生の体験を説明する理論	紹介する理論について各自からプレゼンテーション・ディスカッション			高谷	
13	5. 8. 23(水) 3	病気・障害・人生の体験を説明する理論	12講で扱った理論について各自から再プレゼン・ディスカッションおよび事例検討			高谷	
14	5. 8. 30(水) 3	文献レビュー内容のプレゼン	レビューの内容のプレゼン・ディスカッション			高谷	

15	5.9. 6(水) 3	理論的枠組みの統合と整理	理論の整理と統合(プレゼンテーションとディスカッション)	安保
教科書 参考図書	<p>精神看護に重要な影響をもつ理論に関する原著論文を元に講義を行うが、以下の書籍を教科書および参考図書とする。</p> <p>教科書・参考図書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 野末聖香, 宇佐美しおり, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 2) スチュアート, 精神科看護—原理と実践, エルゼビアジャパン 3) 野川道子(編集), 看護のための中範囲理論, メジカルフレンド社 4) 南裕子他, セルフケア理論と看護実践, へるす出版 5) 安保寛明, コンコーダンス患者の気持ちに寄り添うスキル 21, 医学書院 6) ラザルス, ストレスと情動の心理学—ナラティブ研究の視点から, 実務教育出版 <p>上記以外の参考図書は、講義初回において紹介する。</p>			
履修上の注意	専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。			
学生へのメッセージ	本科目は、CNS 科目（専門分野:精神看護）である。受講にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。			
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp			

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生
精神看護システム特論 (専門科目)	教授・安保 寛明	博士前期課程 1年	前期	2	30	精神看護 CNS 必修	可
授業概要	精神看護の展開に関与する精神保健医療福祉の歴史を法制度について紹介するとともに、精神疾患を有する人の権利の尊重と社会的包摂の概念と実現のためのシステムを教授する。精神保健、障害福祉、司法、労働衛生等の関係法規と保健医療福祉における実践例を紹介する。						
一般目標	1. 精神看護の展開に関与する精神保健医療福祉の歴史を法制度について理解する。 2. 精神疾患を有する人の権利尊重と社会的包摂、その実現に向けたシステムを理解する。 3. 精神保健、障害福祉、労働衛生等の関係法規と保健医療福祉における実践例を想起できる。						
到達目標	1. 精神看護の展開に関与する精神保健医療福祉の歴史について概要を説明できる。 2. 精神看護の展開に関与する精神保健医療福祉の法制度について説明できる。 3. 精神疾患を有する人の権利尊重と社会的包摂について概要を説明できる。 4. 精神疾患を有する人の権利尊重と社会的包摂に向けたシステムを説明できる。 5. 精神保健、障害福祉、労働衛生等の関係法規を説明できる。 6. 精神保健、障害福祉等の関係法規や制度の運用および実践例を述べられる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業中の参加態度・発言頻度、授業時のプレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。 プレゼンテーション 40% レポート 40% 小演習における参加度 20%						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外 学習など	担当
1	5.4.12(水) 1	精神保健医療福祉の現況	・精神疾患を有する人を取りまく現行制度の概要 (保護的処遇から地域精神保健へ) ・リカバリーモデル				安保
2	5.4.19(水) 1	精神保健医療福祉に影響する要因と類型	・生理心理社会モデルの提唱前後の歴史の変遷 ・心理社会的援助システムの類型(訪問、ピアサポート形成、心理社会的学習促進)に関する歴史の変遷				安保
3	5.4.26(水) 1	精神保健医療福祉の歴史と国際比較	・精神疾患および精神的危機の考え方の変遷 ・精神保健医療福祉の国内外における制度等の比較				安保
4	5.5.10(水) 1	精神医療における諸制度と権利擁護(1)	・精神保健福祉法における入院と権利擁護 ・入院精神医療における倫理的課題			第1回 レポート 提出	安保
5	5.5.24(水) 1	精神医療における諸制度と権利擁護(2)	・医療観察法対象者や触法者に関する精神保健上の制度 ・保護観察官や保護司など、地域における援助者との関係構築				安保
6	5.5.31(水) 1	精神保健に関連する諸制度(1)産業精神保健における予防	・労働安全衛生法とその適用(ストレスチェック制度、衛生管理者、産業精神保健における予防教育)				安保
7	5.6.7(水) 1	精神保健に関連する諸制度(2)産業精神保健における復職支援	・障害者職業センター、精神医療デイケアによる復職支援(職業リハビリテーションのプログラム構成と各制度上の位置づけ)				安保
8	5.6.14(水) 1	精神保健に関連する諸制度(3)産業精神保健におけるメンタルヘルスケア	・職場におけるメンタルヘルスケア(ラインケア、セルフケア、ソーシャルサポート) ・ワークエンゲイジメント				安保
9	5.6.28(水) 1	地域精神保健看護(1)社会モデルと援助	・自治体における社会的包摂への取り組み(施策審議会、ピアサポーター養成、ひきこもり対策、アウトリーチなど) ・自治体などによる当事者グループ形成支援 ・自助グループ、WRAP			第2回 レポート 提出	安保
10	5.7.5(水) 1	地域精神保健看護(2)相談支援従事者養成	・相談支援従事者養成の概要 相談支援専門員研修の内容(ケアマネジメントサイクル、リカバリーモデル)				安保
11	5.7.19(水) 1	地域精神保健看護(3)相談支援と就労支援	・就労支援の類型(移行、継続等) ・就労支援におけるストレングスモデルとIPS(Individual Placement and support)				安保

12	5.7.26(水) 1	地域精神保健看護 (4) 相談支援と住居支援	・住まいと生活に関する支援の種類(グループホーム, 訪問型支援, 生活訓練) ・住まいにかかわる人たちによる対話型支援		安保
13	5.8.23(水) 1	精神面の配慮が必要な人々と配慮の概要	・養育関係における虐待と関連制度	第3回 レポート 提出	安保
14	5.8.30(水) 1	精神保健に関連する諸制度(4) 学校精神保健と予防	・スクールソーシャルワークとスクールカウンセリング ・発達障がいや不登校に関する援助		安保
15	5.9.6(水) 1	システムを踏まえた概念的理解	・システムを踏まえた臨床例の整理・理解 ・臨床例の概念的な整理と統合		安保
教科書 参考図書		<p>専門誌に掲載された原著論文をもとにするが、以下の書籍を教科書または参考図書とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) チャールズAラップ, ストレングスモデル(第3版), 金剛出版 2) 野中猛(監修) 看護のための精神保健制度ガイド(第3版), 中山書店 3) 大熊一夫, 精神病院を捨てたイタリア捨てない日本, 岩波書店 4) ミケーレ・ザネッティ, 精神病院のない社会をめざして バザーリア伝, 岩波書店 5) 精神保健医療福祉白書編集委員会(編集), 精神保健医療福祉白書2017, 中央法規 6) 経済協力開発機構, メンタルヘルスと仕事: 誤解と真実—労働市場は心の病気にどう向き合うべきか, 明石書店 7) 経済協力開発機構, 図表でみるメンタルヘルスと仕事—疾病、障害、仕事の障壁を打ち破る, 明石書店 8) ヤーコ・セイックラ, オープンダイアログ, 日本評論社 9) 小澤温, 埼玉県相談支援専門員協会, 相談支援専門員のための ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル: サービス等利用計画の質を高める, 中央法規出版 10) 阪障害者センター, 本人主体の個別支援計画ワークブック—ICF活用のすすめ, かもがわ出版 			
履修上の注意		専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。			
学生へのメッセージ		精神保健及び精神看護が生理心理社会モデルに基づいて構成されていることを念頭におくこと。最新の知見を扱うために原著論文を扱う場合が多くあるので準備しておくこと。			
e-mail・研究室(連絡先)		安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp			

授業科目名	担当教員 職・氏名	学年	開講 時期	単位数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護学特論演習	教授・安保 寛明 講師・高谷 新 非常勤講師・佐藤 大輔	博士前期課程 1年-2年	通年	4	60	選択	可
授業概要	精神看護学に関する学生の研究課題を中心に、演習形式で研究についての理解を深める						
一般目標	精神看護学に関する研究課題、研究方法を具体化する 精神看護学に関する研究方法の例を論文や先行研究などから明らかにする						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関する先行研究を用いながら研究課題の意義について討論することができる。 2. 先行研究を用いて研究課題への活用や応用を検討することができる。 3. 研究目的を明確にし、研究目的に即した研究方法を検討することができる。 4. 研究目的のために適切なデータ収集方法を検討することができる。 5. 研究課題の実現に向けて、倫理上配慮すべき事項をまとめることができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	<p>評価方針：知識、技術、態度 (Knowledge, Skills, Attitude) の3側面によって評価する。</p> <p>評価対象：知識・・・研究計画の立案と先行研究から把握する一シオンを対象とする。 技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。</p> <p>プレゼンテーション 40% 事例検討におけるレポート 40% 受講態度 20%</p>						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	後日連絡 原則的に 木曜日2限	ガイダンスおよび導入演習	精神看護学特論演習で行うことの 解説・演習	11月締め切りの課 題を出します。	安保 高谷 佐藤		
2 - 5		研究課題の明確化と研究デザインの の洗練	精神保健および精神看護で取り扱 う多くの事柄をどのように取り扱 うことが望ましいかの議論	12月締め切りの課 題を出します。	安保 高谷 佐藤		
6 - 13		研究デザインの洗練、特に研究にお けるデータの収集方法と分析方法	質的・量的なデータの位置づけに 関する議論 データ収集方法について、先行研 究や必要資料を用いて検討する。		安保 高谷 佐藤		
14 - 19		研究デザインの洗練、特に海外およ び日本の先行例との比較	Evidence に関する理解		安保 高谷 佐藤		
20 - 23		研究デザインの洗練、特に倫理的側 面	研究デザインについて、倫理的側 面から研究方法の妥当性や必要な 倫理的配慮について討論する。		安保 高谷 佐藤		
24 - 30		研究活動にまつわる プレゼンテーション	研究デザインに関連する活動（予 備調査等）について実践的な事項 を行う。		安保 高谷 佐藤		
教科書 参考図 書		第1回の際に紹介します。					
履修上の注意	プレゼンテーションやレポートの効果的な方法については、各自で学ぶことが望ましい。 メンタルヘルスに関する研究の特徴を考察することが望ましい。						
学生への メッセージ	演習は能動的に行うものになると思いますので、そのつもりでいらしてください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間 数	必修・選択 の別	科目等 履修生
精神機能学特論 (専門科目)	教授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子 非常勤講師・後藤 剛	博士前期課程 1年	前期	2	30	精神看護 CNS 必修	否
授業概要	精神機能を多面的に評価するための方法を学ぶ。情動や行動などに見受けられる精神状態を精神機能の観点から査定する方法を多面的に学ぶ。心身相関を起しやすい状態像を扱うとともに、生理心理社会面の原因・誘因による精神状態への影響と査定について取り扱う。						
一般目標	1. 精神状態を多面的に評価するための方法を学ぶ。 2. 情動や行動から精神機能の査定を行う方法を学ぶ。 3. 心身相関を起しやすい状態像について理解する。 4. 心理社会的な原因による精神状態への影響とその査定について理解する。						
到達目標	1. 精神状態を多面的に評価するための方法を述べられる。 2. 情動や行動から精神機能を査定する方法を述べ、一定の実践ができる。 3. 心身相関を起しやすい状態像を具体的に述べられる。 4. 心理社会的な原因による精神状態への影響とその査定を述べられる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業中の参加態度・発言頻度、授業時のプレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。 プレゼンテーション 20% レポート 60% 小演習における参加度 20%						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習 など	担当		
1	毎 週 木曜日 2限目	精神健康	精神健康の査定 (WHO 精神健康評価) 講義と小演習		安保 高橋		
2		精神機能分類	精神機能学における精神機能の分類 (ICF) 講義と小演習		高橋		
3		精神発達と精神機能	心理社会的側面での精神発達と査定方法 (パーソナリティの獲得と生涯発達、コーピング評価)		高橋		
4		生活機能評価と精神機能	生活機能評価と精神機能 (睡眠パターン評価、作業課題評価など) 講義と小演習 (プレゼンテーション)		高橋		
5		心身相互作用	心身相互作用を引き起こしやすい状態像 講義		高橋		
6		心身相互作用	心身相互作用の査定 講義	レポート課 題を課す	高橋		
7		査定と観察	面接による精神健康度および精神状態の査定 MSE (Mental State Examination) のうち意識 および注意について 講義と小演習		高橋 安保		
8		査定と観察	面接による精神健康度および精神状態の査定 MSE (Mental State Examination) のうち洞察 その他について 講義と小演習		高橋 安保		
9		査定と観察	観察による精神健康度および精神状態の査定 MSE (Mental State Examination) 講義と小 演習	レポート課 題を課す	高橋 安保		
10		精神科診断学 診断分類	精神科診断分類と精神機能 講義		後藤		
11		精神科診断学 情動と診断	情動に関する疾病・症候群の診断と鑑別講義		後藤		
12		精神科診断学 認知と診断	認知機能に関する疾病・症候群の診断と鑑別 講義		後藤		
13		精神科診断学 意識と診断	意識障害を引き起こす疾病・症候群の診断と 鑑別 講義	レポート課 題を課す	後藤		
14		面接による精神機能のア セスメント	ロールプレイでの模擬査定 患者役を観察、質問して見立てる演習		高橋 安保		
15		心理社会的アセスメント	せん妄および認知症状に関する臨床検査 情動および気分に関する臨床検査 重大なライフイベント、災害精神保健の観点 での査定 心理検査		高橋 安保		

<p>教科書 参考図書</p>	<p>学術誌等に掲載された事例報告を扱うが、以下の教科書および参考図書の内容を活用する。</p> <p>教科書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 野末聖香, 宇佐美しおり (2007), 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 2) 土井健郎 (1992), 方法としての面接 臨床家のために, 医学書院 3) エリクソン EH (1997), ライフサイクルその完結, みすず書房 4) アメリカ精神医学会 (2005) DSM-V 診断面接ポケットマニュアル, 医学書院 5) 山内俊雄, 鹿島晴雄 (2015) 精神・心理機能評価ハンドブック, 中山書店 <p>参考図書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 第3版, メディカルサイエンスインターナショナル 2) 中井久夫, 統合失調症をたどる, ラグーナ出版 3) 滝川一廣, 子どものための精神医学, 医学書院 4) 中井久夫, 看護のための精神医学 第2版, 医学書院 5) 中井久夫, いじめのある世界に生きる君たちへ - いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉, 中央公論新社 6) 稲田俊也, 観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド, じほう
<p>履修上の注意</p>	<p>専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>自身が理解することと同様に、説明できることを重視して臨んでほしい。</p>
<p>e-mail・研究室 (連絡先)</p>	<p>安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp</p>

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護学特論Ⅱ (専門科目)	教 授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子	博士前期課程 1年	通年	2	30	精神看護 CNS必修	否
授業概要	精神看護において卓越した役割を担うための関連技法を教授する。精神的困難を有する人に生じやすい倫理的課題と権利擁護について取り扱う。また職場のメンタルヘルスや回復過程の支援に有益な学習促進および動機づけに関連した技法を学ぶ機会とする。						
一般目標	1. 精神看護において卓越した役割を担うための理論と関連技法を獲得する。 2. 精神的困難を有する人に生じやすい精神機能や倫理的課題を理解し、それらの観点から必要な技法を理解する。 3. 個人および集団における援助の特徴を踏まえた技法を理解する。						
到達目標	1. 精神看護において卓越した役割を担うための理論と関連した技法を述べられる。 2. 精神的困難を有する人に生じやすい精神機能や倫理的課題を理解し、それらの観点から必要な技法を述べられる。 3. 個人および集団における援助の特徴を踏まえた技法を理解する。						
成績評価方針 評価方法 および基準	評価方針：知識、技術、態度 (Knowledge, Skills, Attitude)の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・小テストを行う。 技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 プレゼンテーション 20% 小テスト 40% 演習 40%						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など	担当
1	5. 9. 28 (木) 2	精神看護における種々の技法の位置づけ	精神看護に関する理論的基盤の概要 生理心理社会モデルとの関連				安保
2	5. 10. 5 (木) 2	支持的面接技法	支持的面接技法 講義と演習				高橋
3	5. 10. 12 (木) 2	個人と集団(組織)のアセスメント促進技法(1)	インタビューに関連した質問技法 講義と演習				高橋
4	5. 10. 19 (木) 2	個人と集団(組織)のアセスメント促進技法(2)	ストレングスアセスメント 講義と演習				高橋
5	5. 10. 26 (木) 2	個人と集団(組織)のアセスメント促進技法(3)	ケースフォーミュレーションに有益な質問技法(1:個人要因) 講義と演習				高橋
6	5. 11. 2 (木) 2	個人と集団(組織)のアセスメント促進技法(4)	ケースフォーミュレーションに有益な質問技法(2:集団要因) 講義と演習				高橋
7	5. 11. 9 (木) 2	面接場面における対立の緩和(1)アサーション	アサーションが必要な場面と具体的展開 講義と演習				高橋
8	5. 11. 16 (木) 2	面接場面における対立の緩和(2)認知的対処	認知的対処の種類と方法 講義と演習				高橋
9	5. 11. 30 (木) 2	集団療法における種々の技法(1)合意と同意の形成	安心の獲得に向けた合意形成 講義と演習				安保
10	5. 12. 21 (木) 2	集団療法における種々の技法(2)目標設定	目標設定と不調和に対する援助技法 講義と演習				安保
11	6. 1. 4 (木) 2	集団療法における種々の技法(3)動機づけ	動機づけ面接の構造と集団への応用 講義と演習				安保
12	6. 1. 11 (木) 2	学習促進に関する技法	心理教育の構造と応用 (英国リカバリーカレッジの構造) 講義と演習				安保
13	6. 1. 18 (木) 2	倫理調整で生じやすい技法	倫理的判断を進めるための構造 講義と小演習				高橋
14	6. 1. 25 (木) 2	ピアサポート促進に関する技法	ピアサポートグループの運営に有益な補助的技法 講義				安保
15	6. 2. 1 (木) 2	共同意思決定に有益な技法	共同意思決定の過程と関連技法 講義と小演習				安保

<p>教 科 書 参 考 図 書</p>	<p>教科書・参考図書： 1) ピーター・ディヤング, インスー・キム・バーグ, 解決のための面接技法—ソリューション・フォーカストアプローチの手引き, 金剛出版 2) 前田ケイ, 基本から学ぶ SST 精神の病からの回復を支援する, 星和書店 3) 厚生労働省, こころの耳—働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト, https://kokoro.mhlw.go.jp/ 4) 小谷英文, ダイナミック・コーチング—個人と組織の変革, PAS 総合研究所 5) Central and North West London NHS Foundation Trust, CNWL Recovery & Wellbeing College, http://www.cnwl.nhs.uk/recovery-college/ 6) チャールズラップ, リチャードゴスチャ, ストレンクスモデル—リカバリー志向の精神保健福祉サービス, 金剛出版</p>
<p>履 修 上 の 注 意</p>	<p>専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。</p>
<p>学 生 へ の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>本科目は、CNS 科目（専門分野:精神看護）である。受講にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。</p>
<p>e-mail・研究室 (連 絡 先)</p>	<p>安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp</p>

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位 数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護学特論Ⅲ (専門科目)	教授・安保 寛明 准教授・蓬田 伸一 非常勤講師・高橋 葉子	博士前期課程 1年	通年	2	30	精神看護 CNS必修	否
授業概要	精神科における治療技法について生理・心理・社会モデルを念頭において体系的に学ぶ。身体・生理的観点から精神健康上の問題を捉えた身体機能と精神機能の向上を念頭に置いた介入を学ぶうえでは精神科薬物療法、集団精神療法、行動療法といった心身相関を重視した専門的技法の全体像と有効な介入方法を教授する。また、心理社会モデルにもとづいた防衛機制や発達課題に端緒を発する種々の課題について、認知療法や社会的包摂を念頭に置いた治療過程について教授する。						
一般目標	1. 精神科における治療技法について学ぶ。 2. 身体・生理的観点および心理・社会的観点から精神健康上の問題の捉え方を学ぶ。 3. 身体機能と精神機能の向上を念頭に置いた介入としての精神科薬物療法や精神療法などの専門的技法を学ぶ。 4. 心理社会的機能の改善と念頭に置いた介入としての精神療法や心理社会的治療技法について学ぶ。						
到達目標	1. 精神科における治療技法の全体像を述べられる。 2. 身体・生理的観点に基づく精神健康上の課題解決方法を述べられる。 3. 身体機能と精神機能の向上を念頭に置いた介入としての精神科薬物療法と精神療法の特性を述べられる。 4. 心理社会的機能の改善を念頭に置いた介入としての精神療法や心理社会的治療技法について学ぶ。						
成績評価方針 評価方法 および基準	授業中の参加態度・発言頻度、授業時のプレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。 プレゼンテーション 40% レポート 40% 小演習における参加度 20%						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学 習など	担当		
1		精神科治療と看護	精神科における治療と看護 講義		安保		
2		認知機能に対する治療(1) 認知モデルと認知行動療法	認知行動療法 講義と演習		高橋		
3		認知機能に対する治療(2) 認知モデルとメタ認知療法	認知行動療法 講義と演習		高橋		
4		精神科薬物療法 睡眠障害と不安障害	睡眠障害や不安障害に適用される薬物療法の作用 薬理相互作用 講義		蓬田		
5		精神科薬物療法 気分障害	気分障害に対して適用される薬物療法の作用 薬理相互作用 講義		蓬田		
6		精神科薬物療法 身体機能と薬物動態	身体機能の変化に伴う向精神薬の薬物動態 (体重変化、加齢、代謝機能変化等) 講義		蓬田		
7	後日連絡	リエゾン精神領域に関係する薬物療法	リエゾン精神の観点で処方/適用される薬物の作用 薬理相互作用 講義		蓬田		
8		リエゾン精神領域に関係する薬物療法(2)	リエゾン精神の観点で処方/適用される薬物の作用 薬理相互作用の査定 演習2		高橋		
9		精神科治療の概要	生理心理社会モデルと社会精神医学 講義		スポット調整中		
10		生理心理社会モデルにおける精神科治療学	総合病院精神医学における治療展開 講義		スポット調整中		
11		精神療法1	精神療法の種類と方略 講義		スポット調整中		
12		精神療法2	行動療法や生活療法の観点から見た精神療法 講義	レポート課題す	スポット調整中		
13		集団精神療法	集団精神療法の種類と方略 (集団認知行動療法を含む) 講義		安保		
14		集団精神療法2	集団や社会参加を活用した治療の実際 演習		安保		
15		社会技能訓練	社会技能訓練(SST)の治療的意義と方略 講義と演習		安保		

<p>教科書 参考文献</p>	<p>教科書： 1. Tusaie K, Fittzpatrick, J. Advanced Practice Psychiatric nursing, 2013, springer 2. Winston A (大野裕訳), 動画で学ぶ支持的精神療法入門, 医学書院 3. Stephen MS (仙波純一ほか訳), 精神薬学エッセンシャルズ 神経科学的基礎と応用 第3版, メディカルサイエンスインターナショナル 4. ジュディス・S・ベック, 認知行動療法実践ガイド: 基礎から応用まで, 星和書店 5. エイドリアン・ウェルズ, メタ認知療法: うつと不安の新しいケースフォーミュレーション, 日本評論社</p> <p>参考図書： 1) Harris N., Baker J., Gray R., Medicines management in mental health management, 2009, wiley-blackwell 2) Wheeler K, Psychotherapy for the advanced practice Psychiatric Nurse, Mosby 3) 大野裕, はじめての認知療法, 講談社</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>専門看護師養成に必要な科目であることを留意して履修すること。</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>本科目は、CNS科目（専門分野:精神看護）である。受講にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。</p>
<p>e-mail・研究室 (連絡先)</p>	<p>安保寛明: 研究室 15 hambo@yachts.ac.jp</p>

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位数	時間 数	必修・選択 の別	科目等 履修生
精神看護学特論IV (専門科目)	教授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子 非常勤講師・木島 祐子	博士前期課程 1年	通年	2	30	精神看護 CNS 必修	否
授業概要	精神科における治療技法に関連した精神看護における専門技法について学ぶ。心身相関、動機づけと学習支援、環境強化による精神機能の向上を念頭に置いた介入を学ぶ。個人および集団精神療法、認知行動療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進といった対人関係や自己動機づけの観点から専門的技法の全体像と有効な介入方法を教授する。						
一般目標	1. Oremのセルフケア理論、Stuartのストレス対処モデル、Snowdenのコンコーダンスモデルが示す精神看護における理論と技法の関連を理解する。 2. 動機づけ、学習支援、環境強化による精神機能の向上のための介入を理解する。 3. 個人および集団精神療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進といった方法を理解するとともに看護による有効な介入方法を理解する。						
到達目標	1. Oremのセルフケア理論、Stuartのストレス対処モデル、Snowdenのコンコーダンスモデルが示す精神看護における理論と技法の関連を理解する。 2. 動機づけ、学習支援、環境強化による精神機能の向上のための介入を理解する。 3. 個人精神療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進の具体的な方法を述べられる。 4. 個人精神療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進のうちいずれかについて有効な介入方法が実践できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	評価方針：知識、技術、態度 (Knowledge, Skills, Attitude)の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・レポートを行う。 技術・・・レポートと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 プレゼンテーション 20% レポート 40% 演習 40%						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員との知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1	5.4.20 (木) 4	精神看護の専門性と技法	精神看護の専門性に含まれる機能と技法の関係		安保 木島		
2	5.4.27 (木) 4	個人療法の基盤	個人療法における関係発展と技法 1) ナラティブアプローチ 講義と演習		安保 木島		
3	5.5.25 (木) 4	個人療法の基盤	個人療法における関係発展と技法 2) 合意形成、共同意思決定 講義と小演習		安保 木島		
4	5.6.8 (木) 4	個人療法の基盤	個人療法における関係発展と技法 演習	演習に基づいた レポートを課す	安保 木島		
5	5.7.6 (木) 4	課題解決に向けた相談技法 解決志向ブリーフセラピー	解決志向ブリーフセラピーの基盤 核となる質問の展開 講義と小演習		安保 木島		
6	5.7.20 (木) 4	課題解決に向けた相談技法 解決志向ブリーフセラピー (2)	解決志向ブリーフセラピーの応用 核となる質問の展開 講義と小演習		安保 木島		
7	5.7.27 (木) 4	事例検討	ゲートキーパー研修を活用した 初期対応と個別面談演習		安保 木島		
8	後日連絡	認知行動療法に関する技法 1) 認知理論の基礎	認知モデルに関する基礎的基盤 講義と演習		高橋		
9	後日連絡	認知行動療法に関する技法 1) 認知理論の基礎 (2)	認知モデルに関する基礎的基盤 講義と演習 (2)		高橋		
10	後日連絡	認知行動療法に関する技法 2) 論理療法・感情の対処	認知モデルをもとにした援助 講義と演習		高橋		
11	後日連絡	認知行動療法に関する技法 2) 論理療法・感情の対処	認知モデルをもとにした援助 講義と演習		高橋		
12	後日連絡	認知行動療法 3) 認知行動療法	認知行動療法の概要		高橋		
13	後日連絡	認知行動療法 3) 認知行動療法 (2)	認知行動療法の事例をもとにした演習・事例検討		高橋		
14	6.1.18 (木) 4	自己管理強化にむけた技法 1) WRAP	WRAP (Wellness Recovery Action Plan) の 概要・学習支援による自己管理強化		安保 木島		
15	6.1.25 (木) 4	自己管理強化にむけた技法 2) 心理教育・家族心理教育	心理教育と家族心理教育 講義と演習		安保 木島		

<p>教科書 参考図書</p>	<p>教科書と参考図書： 1) 宮坂道夫，対話と承認のケア：ナラティブが生み出す世界，医学書院，2020 2) エイドリアン・ウェルズ，メタ認知療法：うつと不安の新しいケースフォーミュレーション，日本評論社 3) アラン・S. ベラック，わかりやすい SST ステップガイド—統合失調症をもつ人の援助に生かす，星和書店 4) ウインデドライデン，実践論理療法入門—カウンセリングを学ぶ人のために，岩崎学術出版社 5) アルバートエリス，どんなことがあっても自分をみじめにしないためには—論理療法のすすめ，川島書店</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>生理心理社会モデルにおけるケアの全体像を意識して臨むことが望ましい。</p>
<p>e-mail・研究室 (連絡先)</p>	<p>安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp</p>

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生
精神看護展開論Ⅰ (専門科目)	教授・安保 寛明 非常勤講師・木島 祐子	博士前期課程 1～2年	通年	2	30	精神看護 CNS 選択必修	否
授業概要	地域精神看護の理論と技法について取り扱う。 訪問看護やデイケアといった個別および集団による精神疾患患者に対する援助の要諦を示すとともに、家族支援やピアサポート育成による人間関係による権利擁護と行動変容について紹介し、地域啓発および職種および地域間連携における文化的越境がもたらす意味について解説する。行政機関に所属する保健医療職者の機能と協同についても解説する。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域精神看護の展開に意義のある理論と技法について概要と適用例を述べられる。 2. 訪問看護などによる個別支援における援助の要諦を述べられる。 3. デイケアなどによる集団による援助の要諦を述べられる。 4. 家族支援やピアサポート育成等の当事者を取り巻く人間関係を強化することでの権利擁護と行動変容について述べられる。 5. 職種および地域間連携における文化的越境がもたらす意味を述べられる。 6. 行政機関に所属する保健医療職者の機能と協同について述べられる。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域精神看護の展開に意義のある理論と技法について概要と適用例を述べられる。 2. 訪問看護などによる個別支援における援助の要諦を述べられる。 3. デイケアなどによる集団による援助の要諦を述べられる。 4. 家族支援やピアサポート育成等の当事者を取り巻く人間関係を強化することでの権利擁護と行動変容について述べられる。 5. 職種および地域間連携における文化的越境がもたらす意味を述べられる。 6. 行政機関に所属する保健医療職者の機能と協同について述べられる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	<p>評価方針：知識、技術、態度 (Knowledge, Skills, Attitude) の3側面によって評価する。</p> <p>評価対象：知識・・・小テストを行う。 技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。</p> <p>態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。</p> <p>プレゼンテーション 20% 小テスト 40% 演習 40%</p>						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習 など	担当		
1		エンパワメントと回復モデル	地域精神看護における当事者性と専門性の課題 講義		安保		
2		地域精神看護における援助基盤 (1) ICM, ACT のエビデンス	Assertive Community Treatment による地域支援の効果(再入院予防など) 講義		安保		
3		地域精神看護における援助基盤 (2) ICM, ACT のフィデリティ	効果を挙げる地域支援が有する組織的要件 講義		安保		
4		地域精神看護における援助基盤 (3) Day Hospital, IPS の意義	国内外における通院型治療環境の類型と支援 (デイケアや就労支援) 講義		安保		
5		地域精神看護における援助基盤 (4) Individual Placement and Support の意義	国内外における就労支援などの場の支援 講義		安保		
6		地域精神看護における援助基盤のまとめ	上記(1)から(4)に関するプレゼンテーションと討議		安保		
7		個別支援の援助基盤	意思決定モデルとエンパワメント 講義		安保		
8		個別支援の援助基盤	二者間での合意形成、職業リハビリテーションを例に講義と小演習		安保		
9		地域精神看護における事例検討	事例検討 プレゼンテーションと演習		安保		
10		当事者を取り巻く人々への援助 (1) 家族支援	家族心理教育 講義と小演習		安保		
11		当事者を取り巻く人々への援助 (2) ピアサポート支援	ピアサポート支援 講義と小テスト		安保		
12		地域定着と回復促進：連携と越境 (1) 職種間連携	職種間連携の意義 講義と演習		安保		
13		地域定着と回復促進：連携と越境 (2) 地域間協働	地域間協働がもたらす活動の意義 主体性喚起など 講義と演習		安保		

14	地域定着と回復促進：連携と越境 (3) 公民連携	公民の連携の具体例 ひきこもり支援など 講義と演習		木島
15	連携と越境の事例検討	事例検討 プレゼンテーションと演習		安保 木島
教科書 参考図書	教科書・参考図書： 1) ラップ CA, ストレングスモデル[第3版]—リカバリー志向の精神保健福祉サービス, 金剛出版 2) リバーマン RP, 精神障害と回復：リバーマンのリハビリテーション・マニュアル, 星和書店 3) 西尾雅明, ACT 入門—精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム, 金剛出版 4) 三品桂子, 重い精神障害のある人への包括型地域生活支援：アウトリーチ活動の理念とスキル, 学術出版会 5) 伊藤順一郎, 精神科病院を出て、町へ——ACT がつくる地域精神医療, 岩波書店 6) 香田真希子, IPS を学ぶ ストレングスモデルに基づく個別就労支援の進め方, 中島映像教材出版 7) 伊藤順一郎, 伊藤順一郎・精神科アウトリーチ論, 中島映像教材出版 8) 石川清, ドキュメント・長期ひきこもりの現場から, 洋泉社 9) 境泉洋, 野中俊介, CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブック—若者がやる気になるために家族ができること, 金剛出版			
履修上の注意	専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。			
学生へのメッセージ	地域定着と回復促進のためには、人間関係の尊厳と回復が重要である。安心感や信頼感とよく表現される感覚は、何によってもたらされるのかを自分や他人の様子から例示できることが望ましい。			
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp			

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講 時期	単位数	時間 数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護展開論Ⅱ (専門科目)	非常勤講師・高橋 葉子	博士前期課程 1～2年	通年	2	30	精神看護 CNS 選択必修	否
授業概要	リエゾン精神看護の対象となる症状やステージ、精神的問題を持った個人と家族へのアセスメントと援助方法を、理論を用いながら学習する。その際、倫理的観点から問題に対応できる能力も培う。医療者の精神保健問題を組織の視点を含めて総合的にアセスメントし、援助方法を探求する。さらに以上を通して、精神看護専門看護師の役割と機能に関して理解を深める。						
一般目標	1. リエゾン精神看護の対象となる症状やステージ、精神的問題を持った個人へのアセスメント法と介入方法を述べられる。 2. リエゾン精神看護が必要な状況を、理論の概念を用いて説明できる。 3. リエゾン精神看護が必要な状況に生じやすい倫理課題や調整について理解する。 4. 医療者の精神保健問題を組織の視点を含めて総合的にアセスメントし、援助方法を探求する。 5. 以上を通して、精神看護専門看護師の役割と機能に関して理解を深める。						
到達目標	1. 精神看護専門看護師の役割と機能、責任について説明できる。 2. 身体疾患患者に見られる代表的な精神的問題と診立て、援助方法を理解する。 3. ストレス時の精神・身体症状の関連が理解できる。 4. 緩和医療でのリエゾン精神看護師の役割と機能を説明できる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	評価方針：知識、技術、態度 (Knowledge, Skills, Attitude)の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・小テストを行う。 技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・プレゼンテーション、ディスカッションへの取り組み方を総合して評価する。プレゼンテーション 20% ディスカッション 20% 小テスト 30% レポート 30%						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
1		Introduction:リエゾン精神看護に関する理論的基盤の概要	リエゾン精神看護専門看護師の目的、役割、機能 (講義、ディスカッション)	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。	高橋		
2		リエゾン精神看護専門看護師に必要な理論	精神力動理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、心身相関に関する理論、セルフケア理論、システム理論 (講義、ディスカッション)	当該項目の後にレポートを提出すること。	高橋		
3		リエゾン精神看護専門看護師に必要なアセスメントスキル	身体疾患がある人に対する精神状態・精神健康度の査定、心身相関の査定 (講義、ディスカッション)	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 当該項目の後に小テストを行うので準備しておくこと。	高橋		
4		リエゾン精神看護の対象となる症状とケア①	不安状態にある人とそれを取り巻く人々へのケア (講義、プレゼンテーション、ディスカッション)	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。	高橋		
5		リエゾン精神看護の対象となる症状とケア②	怒りや攻撃性のある人とそれを取り巻く人々へのケア (講義、プレゼンテーション、ディスカッション)	学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。	高橋		
6		リエゾン精神看護の対象となる症状とケア③	うつ状態、躁状態にある人、希死念慮、自殺念慮がある人とそれを取り巻く人々へのケア (講義、プレゼンテーション、ディスカッション)		高橋		
7		リエゾン精神看護の対象となる症状とケア④	せん妄状態にある人とそれを取り巻く人々へのケア (講義、プレゼンテーション、ディスカッション)		高橋		
8		リエゾン精神看護の対象となる症状とケア⑤	トラウマの問題がある人とそれを取り巻く人々へのケア (講義、プレゼンテーション、ディスカッション)	当該項目の後に小テストを行うので準備しておくこと。	高橋		
9		リエゾン精神看護の対象となるステージとケア①	終末期・緩和ケアに伴う精神的問題がある人とそれを取り巻く人々へのケア (講義、プレゼンテーション、ディスカッション)		高橋		

10		リエゾン精神看護の対象となるステージとケア②	妊娠・出産に伴う精神的問題がある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）		高橋
11		リエゾン精神看護における家族へのケア	精神的問題を抱える患者の家族、家族自身が精神的問題を抱えるケースへのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）		高橋
12		リエゾン精神看護における倫理調整①	精神的問題を抱えるケースの意思決定支援、医療者間の葛藤があるケース等への介入（講義、ディスカッション）	事前に事例とワークシートを提示するので、それに沿って分析し、発表すること。	高橋
13		リエゾン精神看護における倫理調整②	モデル事例を用いての事例検討、ディスカッション		高橋
14		リエゾン精神看護における看護師のメンタルヘルス	看護師のメンタルヘルスを取り巻く状況の理解と支援方法（講義、ディスカッション）	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 当該項目の後でレポートを提出すること。	高橋
15		リエゾン精神看護におけるチーム医療と組織開発	リエゾンチームの運営、他職種との役割分担、他の専門看護師や認定看護師との協働、所属組織内での役割開発のあり方（講義、ディスカッション）		
教科書参考図書		教科書：野末聖香，リエゾン精神看護，2010 日本精神看護師協議会監修：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，日本看護協会出版会，2009 参考図書：平井元子：身体疾患患者の精神看護—リエゾンナースへの相談事例に学ぶ，へるす出版，2013 1）平井元子：リエゾン 身体と心をつなぐかわり，仲村書林，2014			
履修上の注意		専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。			
学生へのメッセージ		通年科目であり、履修者との日程調整を行う。			
e-mail・研究室（連絡先）		高橋葉子：takahashi-yoko@umin.ac.jp			

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護学実習Ⅰ (専門科目)	教授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子 非常勤講師・木島 祐子	博士前期課程 1年	通年	1	45	精神看護 CNS 必修	否
授業概要	精神保健看護学における諸理論と技法を踏まえて、精神障害をもつ人とその周囲の人々への高度専門的看護実践について参加観察体験を通して学び、専門看護師の役割機能について探求する。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関における専門看護師の活動への参加観察を通して役割と機能を学ぶ。 2. 高度専門的看護実践を行う上での自らの課題を言語化する。 3. 精神看護専門看護師の役割とその機能について、治療の場の構造や文化、職種や背景の相違によって生じる人間関係も踏まえながら考察する。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関における専門看護師の活動への参加観察を通して学んだ専門看護師の役割と機能について説明できる。 2. 各自の問題意識と関心に沿って実習を深めながら、高度専門的看護実践を行う上での自らの課題を言語化できる。 3. 精神科における専門看護師の役割とその機能について、治療の場の構造や文化、職員同士の人間関係も踏まえながら考察し、レポートにまとめることができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。特に専門看護師の役割に関する理解と実践上の意義と機能に関する理解を評価する。 評価方法と基準：実習要項に記載する。						
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など	担当	
	9月の水・金 (6日間) 予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの課題に沿って、実習の目標、内容、方法を計画し事前に提出する。 2. 精神看護専門看護師の実践を観察し、事前に学んだ専門看護師の6つの役割に照らして機能と意義を記述する。 3. 専門看護師の所属機関における専門看護師の役割と機能について、専門看護師およびその周囲の人々から洞察する。 4. 自分自身の行動や観察内容を記録や口述によって表明し、実習指導者や指導教員からスーパービジョンを受けて学習に活かす。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：週末を除いた6日間（例：水曜日から翌週水曜日まで、あるいは毎週水・金×3週間など）。 2. 実習場所： 横浜市立市民病院、みやぎ県南中核病院、東京都立松沢病院、訪問看護ステーションなごみ 学生が獲得すべき専門性などにより実習場所を決定する。 3. 実習時間：原則として、日勤帯（8時15分～16時15分）とする。ただし、実習施設との相談により、設定の変更がありうる。 実習の詳細については実習要項に記載するとともに、オリエンテーション時に説明する。 		精神看護学特論などで用いた教科書や資料を事前に整理すること	安保 高橋 木島	
教科書 参考図書	野末聖香, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 南裕子監修, 宇佐美しおり, 精神科看護の理論と実践—卓越した看護実践をめざして, ヌーヴェルヒロカワ 南裕子, 稲岡文昭, セルフケア概念と看護実践, へるす出版						
履修上の注意	専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。						
学生への メッセージ	専門看護師養成に必要な科目であることに留意してください。						
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の 別	科目等 履修生
精神看護学実習Ⅱ (専門科目)	教授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子 非常勤講師・木島 祐子	博士前期課程 1年	通年	2	90	精神看護 CNS必修	否
授業概要	精神科医療施設において、精神科診断と精神科における治療と看護の実際について、見学・参加を通して学び、精神看護専門看護師としての専門的な高度実践能力を身に付ける。						
一般目標	1. 精神科医療における診断法と治療法について、系統的に整理および記述をおこなう。 2. 精神科薬物療法で用いられる薬剤について、各々の特徴を長短あわせて整理する。 3. 患者に関する医学診断および心理査定、治療及び看護を理解し記述する。						
到達目標	1. 精神科医療における診断法と・治療法について、系統的に整理して記述することができる。 2. 精神科で行われる治療の概要を整理するとともに、特に薬物療法で用いられる薬剤について、各々のメリット、デメリット、留意点について説明することができる。 3. 受け持ち患者に関する医学診断と心理査定、実施されている治療及び看護と、自らの実習体験を統合して、レポートを作成することができる。						
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。特に精神科で行われる診断過程と治療過程に関する理解と医療チームにおける精神科看護師の協働と貢献に関する理解を評価する。 評価方法と基準：実習要項に記載する。						
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
	毎週 月曜日	[学習の進め方] 1. 自らの課題に沿って、実習の日 標、内容、方法について計画する。 2. 年度当初に行う事前学習の進捗を もとに、精神科外来で行われる診断 過程と治療決定の過程に関する実習 とする。 3. 予診、個別精神療法、集団精神療 法、認知行動療法、心理教育などの 各種の治療に関して、医師、臨床心 理士、作業療法士、看護師の協力や 助言を得て実習を行う。 4. 直接の関わりによって得た内容 はフィールドノートを作成し、精神 状態の査定を行う。医学的あるいは 心理学的な理解を深める機会を持つ こととする。 5. フィールドノーツなどの記録を もとに、実習指導者や指導教員から スーパービジョンを受ける。	1. 実習期間：原則として、1年次の9月 から12月までの4ヶ月間のうち、週2 日間を5週間あるいはどちらかの曜日に 10週間（全10日）。 2. 実習場所： 山形県立こころの医療センター こころのクリニック OASIS 山形さくら町病院 のうちいずれか一か所 3. 実習時間：原則として、日勤帯（8 時15分～16時15分）とする。ただし、 実習施設との相談により、設定の変更は ありうる。実習の詳細については後日、 オリエンテーション時に説明する。		安保 高橋 木島		
教科書 参考図書	教科書： 1) Tusaie K, Fittzpatrick, J. Advanced Practice Psychiatric nursing, 2013, springer 2) スチュアート, 精神科看護—原理と実践, エルゼビアジャパン 3) 土井健郎(1992), 方法としての面接 臨床家のために, 医学書院 4) エリクソン EH(1997), ライフサイクルその完結, みすず書房 5) アメリカ精神医学会(2005) DSM-V 診断面接ポケットマニュアル, 医学書院 6) 山内俊雄, 鹿島晴雄(2015) 精神・心理機能評価ハンドブック, 中山書店 参考図書： 1) Harris N., Baker J., Gray R., Medicines management in mental health management, 2009, wiley-blackwell						
履修上の注意	特になし						
学生への メッセージ	本科目は、CNS 科目（専門分野:精神看護）である。実習にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。						
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択 の別	科目等 履修生
精神看護学実習Ⅲ (専門科目)	教 授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子	博士前期課程 1年	通年	4	180	精神看護 CNS必修	否
授業概要	精神的困難をもつ人とその家族や重要他者に対して、精神看護で有益な緒理論および概念モデルを活用して、患者の生理・心理・社会的状況をアセスメントする。受け持ち看護師、看護師チーム、多職種チーム、地域連携などの治療およびケアの構造を把握しながら高度な看護ケアを展開する能力を培う。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医療の現場で、患者や家族などの他者と自分との心理的相互作用を検討し、経験に伴う心理および行動面の反応を言語化することができる。 2. 精神機能のアセスメントを通じて精神健康度を吟味する。 3. 精神健康の低下がもたらす生理心理社会的な影響を理解し、健康増進と治療および看護の観点から援助を構築することができる。 4. 援助者としての自己の傾向や特性に気づき、ケアに及ぼす影響を考察できる。 5. ケアの現場における倫理的配慮について考え、建設的な提案ができる。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医療の現場で、患者や家族などの他者と自分との心理的相互作用を検討し、経験に伴う心理および行動面の反応を言語化することができる。 2. 精神機能のアセスメントを通じて精神健康度を吟味する。 3. 精神健康の低下がもたらす生理心理社会的な影響を理解し、健康増進と治療および看護の観点から援助を構築することができる。 4. 援助者としての自己の傾向や特性に気づき、ケアに及ぼす影響を考察できる。 5. ケアの現場における倫理的配慮について考え、建設的な提案ができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。特に精神的治療およびケアを必要とする人に関するアセスメントと援助に関する内容を評価する。 評価方法と基準：実習要項に記載する。						
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
	5.5.17(水) 5.5.19(金) 5.5.31(水) 5.6.2(金) 5.6.16(金) 5.6.21(水) 5.6.23(金) 5.7.5(水) 5.7.7(金) 5.7.14(金) 5.7.19(水) 5.7.21(金) 5.7.26(水) 5.7.28(金) 5.8.2(水) 5.8.4(金) 5.8.9(水) 5.8.16(水) 5.8.18(金) 5.8.23(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療および看護を必要とする患者を1-2名受け持ち、精神状態や生活機能、社会関係に関する査定を、精神機能評価や精神健康度、精神力動およびストレス対処、等の観点からアセスメントする。 2. 患者をとりまく人間関係をもとに、患者自身および患者の周囲の人々に対する援助について看護計画を立案する。 3. 実習期間中におこなう検討によってアセスメントの整理をおこなうほか、追加のアセスメントの方向性を検討する。 4. 患者の精神健康度が低下するにいたった要因及び誘因として重要な観点を整理し、介入計画を立案する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：原則として、週2日で10週間または週1日を20週間(全20日)。 2. 実習場所：山形大学医学部附属病院精神科病棟、社会医療法人二本松会山形さくら町病院、訪問看護ステーションなごみおよび相馬広域こころのケアセンターのうち一か所 3. 実習時間：原則として、日勤帯(8時15分～16時15分)とする 4. 診療場面に立ち会うほか、治療ユニット内(病棟やデイケアなど)でフィールドワークを行いながら患者と関わり、精神機能、精神症状、治療効果、心理社会的内容のアセスメントを行う。担当教員や臨床指導者による週1回以上のスーパービジョンを受け、実習を進める。 5. 実習最終回には、受持ち事例のプレゼンテーションを行い、指導者および教員、他の学生とディスカッションを通して洞察を深める。 6. *具体的には実習要項に記載する 		高橋 安保		
教科書 参考図書	自身で重要と判断した図書を3冊挙げる。精神看護学特論で提示した図書を参考図書とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 野末聖香, 宇佐美しおり, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 2) スチュアート, 精神科看護—原理と実践, エルゼビアジャパン 3) 野川道子(編集), 看護のための中範囲理論, メジカルフレンド社 4) 南裕子他, セルフケア理論と看護実践, へるす出版 						
履修上の注意	特になし						
学生への メッセージ	本科目は、CNS科目(専門分野:精神看護)である。受講にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。						
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護学実習Ⅳ (専門科目)	教授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子 非常勤講師・木島 祐子	博士前期課程 2年	通年	2	90	精神看護 CNS 必修	否
授業概要	精神保健看護のなかでも特に専門性を必要とする分野および領域における、直接援助の機会をもつことなどにより、精神看護専門看護師に必要な実践能力を養成する。 学生が卒業後に専門性を発揮すると予想される分野に応じて、リエゾン精神看護および地域精神看護の領域から経験を積む機会とする。						
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合病院あるいは地域精神保健の現場で、クライアントがかかえる課題について、生理心理社会的観点から、総合的にアセスメントすることができる。 2. 明らかになったクライアントの課題をもとに、倫理的視点や権利擁護の視点を踏まえて、精神的側面の安寧と回復を促進するような専門的な看護援助を理解できる。 3. 精神科医療施設あるいは地域ケア施設において、職種や所属をまたがって援助ネットワークを形成する方向で支援を立案することができる。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 直接および間接に得られる情報や関係形成について、自己の認識を言語によって表面化することができる。 2. 総合病院あるいは地域精神保健の現場で、精神的支援を必要とするクライアントの周囲にいる人々とのかかわりを通して、クライアントがかかえる課題について、身体的、精神的、社会的観点から、総合的にアセスメントすることができる。 3. 明らかになったクライアントの課題をもとに、倫理的視点や権利擁護の視点を踏まえて、精神的側面の安寧と回復を促進するような専門的な看護援助を実践できる。 4. 医療機関あるいは地域精神保健機関において、多職種と連携を取りながら、クライアントのサポートネットワークを形成する方向の支援を立案することができる。 5. 実習を通して、精神的援助を必要とするクライアントがおかれた状況についての理解を深めるとともに、自らの看護実践を振り返り、明らかになった課題について学術的視点から探求することができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。特に精神的治療およびケアを必要とする人に関するアセスメントと援助に関する内容を評価する。 評価方法と基準：実習要項に記載する。						
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学 習など	担当		
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの課題に沿って、実習の日標、内容、方法について計画する。 2. 自らの関心や問題意識に沿って、リエゾン精神看護および地域精神看護の観点で援助を必要とする2~3事例(個人あるいは集団)を担当し、これまで習得した知識や技法にもとづき、専門的看護援助を実践する。 3. クライアントとのかかわりの中で観察したことや自らの実践、フィールド全体の状況について、フィールドノートに記録するとともに、アセスメントとケアプランの立案を適宜実施する。 4. フィールドノートなどの記録をもとに、指導教員や実習指導者からスーパービジョンを受ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：原則として、2年次の5月から8月までの4ヶ月間のうち、水・木曜日あるいは木・金曜日を5週間(全10日)。 2. 実習場所： *リエゾン精神看護・山形大学医学部附属病院、みやぎ県南中核病院 *地域精神看護・特定非営利活動法人 相双に新しい精神保健医療福祉システムをつくる会 訪問看護ステーションなごみ 3. 実習時間：原則として、日勤帯(8時15分~16時15分)とする。ただし、実習施設との相談により、実習時間の変更がありうる。実習の詳細については後日、オリエンテーション時に説明する。 4. 学習内容 事前学習の内容をもとに実習における報告と記録の方式を立案する。また、自分自身の関心とストレングスを明らかにし、指導教員および実習指導者との事前相談を行う。 学んでいる理論や経験を統合して活用し、患者、家族、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの状況をアセスメントして、リエゾン精神看護または地域精神看護の特徴に合わせた介入を組み立てる。実習指導者である精神看護専門看護師とのあいだに専門看護師の6つの役割を意識して構造だて、直接ケアやチーム支援を展開する。 		高橋 安保 木島		

			<p>実習計画は教員および実習指導者とのあいだで指導を受けながら作成し、実習の進捗とともに学習課程を精査する。</p> <p>実習期間の最終盤には実習期間に経験した援助過程をプレゼンテーションし、発表の際に得た質問や意見を踏まえて考察し、実習レポートとする。</p> <p>*詳細については、実習要項を参照のこと</p>		
教科書 参考図書	<p>教科書：(リエゾン精神看護) 野末聖香, リエゾン精神看護 (地域精神看護) 田中美恵子, 精神障害者の地域支援ネットワークと看護援助</p>				
履修上の注意	<p>専門看護師養成に必要な科目であることに留意して履修すること。</p>				
学生への メッセージ	<p>本科目は、CNS 科目 (専門分野:精神看護) である。受講にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。</p>				
e-mail・研究室 (連絡先)	<p>安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp</p>				

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護学実習Ⅴ (専門科目)	教 授・安保 寛明 非常勤講師・高橋 葉子	博士前期課程 2年	通年	1	45	精神看護 CNS 必修	否
授業概要	精神保健看護の専門的立場で対応困難な精神保健看護上の問題を抱える事例および組織における援助が必要な課題に対するコンサルテーション・コーディネーションの実際を通して、精神専門看護師に必要な実践能力を培う。						
一般目標	1. コンサルテーションモデルを活用し、個人では対応が困難な精神保健看護上の問題を抱える事例のアセスメントと看護援助について考察する。 2. 実習施設におけるケースカンファレンスにおいて、アサーティブに意見を提示し、ディスカッションを促進することができる。 3. 職種や背景が異なる人とのコーディネーションが必要な事例に関して、組織全体のアセスメントを行い、援助方法について立案する。						
到達目標	1. コンサルテーションモデルを活用し、個人では対応が困難な精神保健看護上の問題を抱える事例のアセスメントと看護援助について考察する。 2. 実習施設におけるケースカンファレンスにおいて、アサーティブに意見を提示し、ディスカッションを促進することができる。 3. 職種や背景が異なる人とのコーディネーションが必要な事例に関して、組織全体のアセスメントを行い、援助方法について立案する。						
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。特に精神看護専門看護師の役割に関する理解と、コンサルテーションリエゾンモデルに基づく人と組織に対する援助と実践上の意義の理解を重点評価する。 評価方法と基準：実習要項に記載する。						
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当
		1. 自らの課題に沿って、実習の日標、内容、方法を計画するとともに、実習記録用紙をコンサルテーション過程の記録用紙とするための作成を行う。 2. 専門看護師が行う実践を通じて役割について学びを深める。 3. 記録をもとに、指導教員や実習指導者からスーパービジョンを受ける。 4. 精神看護専門看護師の役割と機能について理解した内容を記録として記述する。	1. 実習期間：原則として、2年次の8月および9月のうち、週末を除く6日間 (例：水曜日から翌週水曜日。) 2. 実習場所：みやぎ県南中核病院、東京都立松沢病院、訪問看護ステーションなごみ 3. 実習時間：原則として、日勤帯(8時15分～16時15分)とする。 4. 方法 精神看護専門看護師が行う実践を6つの機能に基づいて分析するとともに、自分自身がコンサルテーションモデルにおけるコンサルタントの機能をもつ。 *実習の詳細については実習要項に記載する				安保 高橋
教科書 参考図書	1. 野末聖香, 片平好重, 住吉亜矢子, 他, リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために, 医歯薬出版 2. エドガー・H・シャイン, プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと, 白桃書房 3. Ann B. Hamric, Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5e, Saunders 4. 野末聖香, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 5. 南裕子監修, 宇佐美しおり, 精神科看護の理論と実践-卓越した看護実践をめざして, ヌーヴェルヒロカラ 6. 南裕子, 稲岡文昭, セルフケア概念と看護実践, へるす出版 7. ピーター・ディヤング, インサー・キム・バーグ, 解決のための面接技法-ソリューション・フォーカストアプローチの手引き, 金剛出版 8. 小谷英文, ダイナミック・コーチング-個人と組織の変革, PAS 総合研究所 9. チャールズラップ, リチャードゴスチャ, ストレングスモデル-リカバリー志向の精神保健福祉サービス, 金剛出版						
履修上の注意	専門看護師養成に必要な科目であることを留意して履修すること。						
学生への メッセージ	本科目は、CNS 科目(専門分野:精神看護)である。受講にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。						
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
精神看護学課題研究 (専門科目)	教授・安保 寛明	博士前期課程 2年	通年	2	90	精神看護 CNS 必修	否
授業概要	これまでの学修および看護実践で生じた関心をもとに、精神看護学における研究課題を見出し、その解決の方略を研究的視点で検討し、論文を作成する。						
一般目標	精神看護における研究課題を見出し、その解決の方略を研究的視点で検討することができる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの関心に基づき、精神看護において探求・解決すべき課題を焦点化できる。 2. 課題設定を行い、研究目的に適した研究方法を探求できる。 3. 研究計画を立案できる。 4. 収集したデータを分析し、論理的にまとめることができる。 5. 看護実践の改善・改革を具体的に提言できる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	研究計画書作成や研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、指導教員と副指導教員が総合的に評価する。なお、山形県立保健医療大学大学院課題研究論文審査要綱に従って期日までに提出された課題論文は、課題研究論文審査委員による審査を受ける。						
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
		文献検討 研究課題の探求 研究計画書作成 データ収集・分析 まとめ（論文作成） 発表	研究計画書の作成および期日までに提出 倫理審査委員会申請書の作成および倫理 審査 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集・分析 考察 課題研究論文の作成および提出 中間発表会・研究発表会における成果の発 表	文献検討 研究課題の探求 研究計画立案 データ分析 論文作成 プレゼンテーション の準備 関連する学会への 参加	安保		
教科書 参考図書	授業中に指定する。						
履修上の注意	山形県立保健医療大学大学院課題論文審査に関する申し合わせに従うこと。 課題研究論文執筆にあたっては、山形県立保健医療大学大学院学位論文執筆規定を遵守すること。						
学生への メッセージ	主体的に取り組むこと。また、積極的に指導教員の指導を受けること。						
e-mail・研究室 (連絡先)	安保寛明：研究室 15 hambo@yachts.ac.jp						

授業科目名 (科目区分)	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選 択の別	科目等 履修生
看護学特別研究 (専門科目)	教授・菅原 京子 教授・遠藤 恵子 教授・遠藤 和子 教授・桂 晶子 教授・沼澤さとみ 教授・齋藤 美華 准教授・安保 寛明 准教授・鈴木 育子 准教授・菊地 圭子 准教授・今野 浩之	博士前期課程 1～2年	通年	10	150	必修	否
授業概要	院生が選択した看護学分野のいずれかの領域において、各自の研究課題について、研究のプロセスを踏み、研究を完成させ、修士論文を作成する。						
一般目標	各専攻領域の講義、演習等で学んだ、概念や理論、研究デザイン等の内容を踏まえ、研究遂行能力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護学分野における諸課題から自らの研究課題を導き出すことができる。 看護学分野に関連する国内外の情報を批判的に吟味する専門的知識や科学的思考力を有する。 自らの研究課題に適した研究デザイン、研究方法を吟味し研究計画を立案することができ、且つ研究を遂行することができる。 研究の遂行において、対象者への倫理的配慮を怠らない謙虚な態度を有する。 得られた県有データを適切に分析・考察し、目的に沿った結論を導き出すことができる。 研究結果を的確に表現し、他者に伝え、意見交換することができる。 						
成績評価方針 評価方法 および基準	研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、指導教員と副指導教員が総合的に評価する。なお、山形県立保健医療大学大学院修士論文審査要綱に従って期日までに提出された修士論文は、学位論文審査委員による審査を受ける。						
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）						
授業計画							
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当		
		倫理審査委員会申請書の作成および倫理審査 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集 データ分析・考察 修士論文の作成および提出 中間発表会・研究発表会における成果の発表					
教科書 参考図書	指導教員の指示に従ってください。						
履修上の注意	修士論文執筆にあたっては、山形県立保健医療大学大学院学位論文執筆規定を遵守する。						
学生への メッセージ	学生は積極的に主指導教員および副指導教員の指導を受ける。						
e-mail・研究室 (連絡先)	齋藤美華：研究室1 misaito@yachts.ac.jp						